

ひと・暮らし元気プラン

飯山市過疎地域自立促進計画

(平成22年度～27年度)

(第2次変更 平成24年3月)

飯 山 市

(策定及び変更の経過)

策 定	平成 2 2 年 1 2 月
第 1 次変更	平成 2 3 年 6 月
第 2 次変更	平成 2 4 年 3 月

目 次

1 基本的な事項	
(1) 飯山市の概況	1
(2) 人口及び産業の推移と動向	3
(3) 飯山市行財政の状況	5
(4) 地域の自立促進の基本方針	8
(5) 計画期間	8
2 産業の振興	
(1) 現況と問題点	9
(2) その対策	15
(3) 計画	18
3 交通通信体系の整備、情報化及び地域間交流の促進	
(1) 現況と問題点	20
(2) その対策	25
(3) 計画	28
4 生活環境の整備	
(1) 現況と問題点	29
(2) その対策	37
(3) 計画	38
5 高齢者等の保健及び福祉の向上及び増進	
(1) 現況と問題点	39
(2) その対策	44
(3) 計画	44

6 医療の確保	
(1) 現況と問題点	45
(2) その対策	47
(3) 計画	47
7 教育の振興	
(1) 現況と問題点	48
(2) その対策	51
(3) 計画	51
8 地域文化の振興等	
(1) 現況と問題点	52
(2) その対策	53
(3) 計画	53
9 集落の整備	
(1) 現況と問題点	54
(2) その対策	55
(3) 計画	55
10 その他地域の自立促進に関し必要な事項	
(1) 現況と問題点	56
(2) その対策	56
(3) 計画	56
事業計画（平成 22 年度～27 年度）過疎地域自立促進特別事業分	57

1 基本的な事項

(1) 飯山市の概況

自然的、歴史的、社会的、経済的諸条件の概要

長野県の北端に位置し、千曲川沿いに広がる飯山盆地を中心に、東西を山地に挟まれた南北に長い地形であり、温泉や高原などの自然資源に恵まれている。

気候は、寒暖の差が大きい内陸盆地型気候で、冬季は日本海からの季節風の影響で市内全域に多くの降雪があり、日本でも有数の豪雪地帯となっている。

古くから山国信州と日本海とを結ぶ交通の要所として、また東北地方への重要な駅路としての役割を担い、江戸時代には千曲川を利用した舟運と、越後に通じる街道を使って、奥信濃の中核都市として発達した。

島崎藤村が雪国の小京都と呼んだ、寺の町としての街並みは、戦国時代に上杉謙信が信濃出陣の拠点として築いた飯山城を中心に、その後城下町としての機能を整え、歴代城主の手厚い保護のもと栄えた寺社文化の影響を受け形成された。

明治維新後の廃藩置県により飯山県となり、その後長野県に編入され、町制がしかれた。昭和29年に飯山町を中心に1町6カ村が合併し「飯山市」が誕生し、さらに、31年に隣接の2カ村を編入して現在の市域となった。

産業は、稲作を中心とする農業と、飯山仏壇や内山紙、スキー工業など風土を生かした伝統工芸が発展した。その後、これらの産業に加え、きのこ類の栽培やスキー場開発による観光、誘致企業による電気機械工業など広がりを見せたが、これらの産業を取り巻く情勢は大変厳しく、現在は、グリーンツーリズムにおける農業と観光のように、それぞれの産業を連携させ付加価値を高める施策を展開している。

千曲川沿いに伸びる国道117号を幹線として道路網が構成されており、平成9年に豊田飯山インターが開通した上信越自動車道も全線開通し高速交通の利便性が高まり、飯山市の交流圏はここ数年で飛躍的に拡大している。

また、平成26年度に金沢まで開通する北陸新幹線・飯山駅の開業により、飯山市は、北信州の玄関口となり、観光・交流人口の増加が期待される。

過疎の状況

過疎化の要因としては、豪雪地帯のハンディとも言える雪処理の負担に始まり、高度経済成長期に産業の立地する条件を持たなかったことによる、若年層を中心とした人口流出、また、広い市域であるが故の投資効率の悪さからくる社会資本整備の遅れなどが考えられる。

過疎地域活性化特別措置法に基づく過疎対策として、平成16年度まで過疎債を中心とした支援策を活用し、雪の障害を克服するための道路改良や除雪機械をはじめ、下水道処理施設など生活環境の基盤整備を中心に、産業振興施設、福祉・教育関連施設、ケーブルテレビ施設など、順調にハード整備を進め、市民にとって住みよい街へと、確実にグレードアップすることができた。一方で、中心商店街公園整備など回遊性のあるまちづくり、飯山の顔のひとつである寺まち観光の拠点を整備するなど、ゆとりの面でも大きく前進できた。これらの施策の成果として、人口の減少率は緩やかになった。

しかし、過疎の指定から外れ、激変緩和措置が終了した平成17年度以降は、長引く地域経済の低迷による地域間格差が拡大し、人口の流出、少子化による人口減少が進んでいる。

社会経済的発展の方向の概要

平成26年度の北陸新幹線の開通を視野に入れ、北信州の玄関口として新幹線駅へのアクセス道路や駐車場などの施設整備、既存の観光拠点の拡充と同時に、近隣市町村との広域観光ネットワークを強化する。

また、新幹線駅の周辺整備にあわせ、中心市街地の活性化や観光を含めた歴史的街並みの整備など、回遊性のあるまちづくりを進め、交流人口の拡大を図る。

グリーンツーリズムでの観光と農業や、まちなか観光と地場産業振興など、既存の地域資源や産業を連携させ、その相乗効果でそれぞれの付加価値を高める。

これらの施策を通して、「ふるさと」のブランドを高めるとともに、受け皿としての生活環境を整備し、質の高い生活を提供、定住人口の拡大と生産人口の定着を図る。

(2) 人口及び産業の推移と動向

昭和35年から50年まで、年間約500人の人口減少が続いてき、昭和50年から平成10年では、年間約200人の減少と、やや緩やかな減少傾向になったが、その後は年間約300人の減少が続いている。世帯数は、昭和30年からほぼ横ばいである。

また、年齢3区分ごとの構成割合をみると、年少人口と生産年齢人口の減少に対し、老年人口は増加傾向にあり、高齢化率は30.4%（平成21年4月現在）と県平均と比べても高い割合を示している。

少子高齢化が進む日本では人口減少に加え、老年人口の増加も進んでおり、飯山市でも人口増加への転換は厳しい状況となっている。

産業別の就業人口では、昭和35年当時は稲作を主とする第一次産業の比率が圧倒的に高かったが、その後減少を続け、平成7年には後発の第二次産業の比率と並ぶまでに低迷している。この傾向は、第一次産業における後継者不足と高齢化の進行により、今後も続くと思われる。また、第二次産業においても、景気の低迷に伴い昭和60年をピークにその後減少が続いている。

一方で、第三次産業の比率が増加し、昭和55年以降は首位を続けている。今後も、豊富な地域資源や整備されつつある交通網を生かした、観光産業の振興などによる増加が予想される。

表-1(1)人口の推移(国勢調査)

(単位:人、%)

区分	S35年		40年		45年		50年		55年	
	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率
総数	37,592		34,799	-7.4%	32,159	-7.6%	30,796	-4.2%	30,073	-2.3%
0歳～14歳	12,351		9,622	-22.1%	7,608	-20.9%	6,782	-10.9%	6,228	-8.2%
15歳～64歳	22,539		22,290	-1.1%	21,354	-4.2%	20,300	-4.9%	19,616	-3.4%
うち15歳～29歳(a)	7,903		7,266	-8.1%	6,595	-9.2%	6,012	-8.8%	5,291	-12.0%
65歳以上(b)	2,702		2,887	6.8%	3,197	10.7%	3,714	16.2%	4,229	13.9%
(a)/総数 若年者比率	21.0%		20.9%	-	20.5%	-	19.5%	-	17.6%	-
(b)/総数 高齢者比率	7.2%		8.3%	-	9.9%	-	12.1%	-	14.1%	-

区分	60年		H2年		7年		12年		17年	
	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率
総数	29,034	-3.5%	28,114	-3.2%	27,423	-2.5%	26,420	-3.7%	24,960	-5.5%
0歳～14歳	5,796	-6.9%	5,148	-11.2%	4,569	-11.2%	4,031	-11.8%	3,473	-13.8%
15歳～64歳	18,538	-5.5%	17,362	-6.3%	16,467	-5.2%	15,406	-6.4%	14,192	-7.9%
うち15歳～29歳(a)	4,496	-15.0%	4,276	-4.9%	4,197	-1.8%	3,981	-5.1%	3,386	-14.9%
65歳以上(b)	4,700	11.1%	5,604	19.2%	6,387	14.0%	6,983	9.3%	7,273	4.2%
(a)/総数 若年者比率	15.5%	-	15.2%	-	15.3%	-	15.1%	-	13.6%	-
(b)/総数 高齢者比率	15.2%	-	19.9%	-	23.3%	-	15.1%	-	13.6%	-

不詳22人

表 - 1(2)人口の推移(住民基本台帳)

区分	H12年3月31日		H17年3月31日		H21年3月31日		
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	増減率
総数	27,433人	- %	26,006人	- %	24,703人	- %	%
男	13,288	48.4	12,553	48.3	11,939	48.3	-4.9
女	14,145	51.6	13,453	51.7	12,764	51.7	-5.1

表 - 1(3)産業別人口の動向(国勢調査)

(単位:人、%)

区分		S35年	40年		45年		50年		55年	
		実数	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率
総数		19,450人	18,236人	-6.2%	18,800人	3.1%	17,478人	-7.0%	17,080人	-2.3%
第1次産業 就業人口	比率	67.2	59.4	-17.1%	51.3	-10.9%	43.3	-21.5%	37.4	-15.7%
	実数	13,070	10,829		9,645		7,572		6,385	
第2次産業 就業人口	比率	9.0	13.3	38.0%	20.2	57.4%	22.3	2.5%	25.2	10.3%
	実数	1,751	2,417		3,805		3,901		4,303	
第3次産業 就業人口	比率	23.8	27.4	7.8%	28.5	7.2%	34.4	12.2%	37.4	6.4%
	実数	4,629	4,990		5,350		6,005		6,392	

区分		60年		H2年		7年		12年		17年	
		実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率
総数		16,499人	-3.4%	16,195人	-1.8%	15,797人	-2.5%	14,853人	-6.0%	13,726人	-7.6%
第1次産業 就業人口	比率	34.3	-11.3%	31.4	-10.3%	28.7	-10.7%	26.4	-13.7%	25.8	-9.7%
	実数	5,662		5,081		4,539		3,917		3,538	
第2次産業 就業人口	比率	26.6	1.9%	26.7	-1.4%	27.3	-0.4%	26.5	-8.4%	22.1	-23.1%
	実数	4,384		4,323		4,306		3,944		3,032	
第3次産業 就業人口	比率	39.1	1.0%	41.9	5.2%	44.0	2.4%	47.1	0.6%	52.1	2.3%
	実数	6,453		6,791		6,952		6,992		7,156	

(3) 市町村行財政の状況

行政機構図については、別図のとおりである。平成 22 年 4 月 1 日現存、職員数は 253 人で、内訳は本庁 173 人、出先機関 12 人、出張所・活性化センター 10 人、学校 15 人、保育園 39 人、派遣他 4 人となっている。

これは、平成 17 年度に策定された「飯山市自立計画」に基づき、平成 22 年度末には職員 250 人体制とするため本庁を中心に組織のスリム化を図ってきたためである。

財政状況としては、税収等自主財源に乏しく、不足分を起債等に依存した財政運営を続けてきていたが、平成 16 年度以降、過疎債の借入れができなくなってからは行財政改革を進めながら極力起債の発行を抑制してきた。その結果、平成 14 年度末には普通会計で 170 億円余りの地方債残高が 21 年度末で約 90 億円まで減少してきている。しかしながら、「新幹線関連等」大型事業が計画されていることから将来的にはかなり厳しい財政運営を強いられる事は必至であり、こうした状況から、より健全な財政運営を目指し、補償金免除による繰上償還の実施や行財政改革に基づく「協働のみちづくり・むらづくり」による公共投資の抑制を行うなかで長期財政計画に基づく計画的な基金の取り崩しによる将来的に安定した財政運営の構築が必要である。

また、「実質公債費比率」は 18%を下回っているが、下水道会計への公債費に対する操出金を含めトータルの債務は全国平均を大幅に上回っており、今後も将来的な債務を減らす努力も必要である。

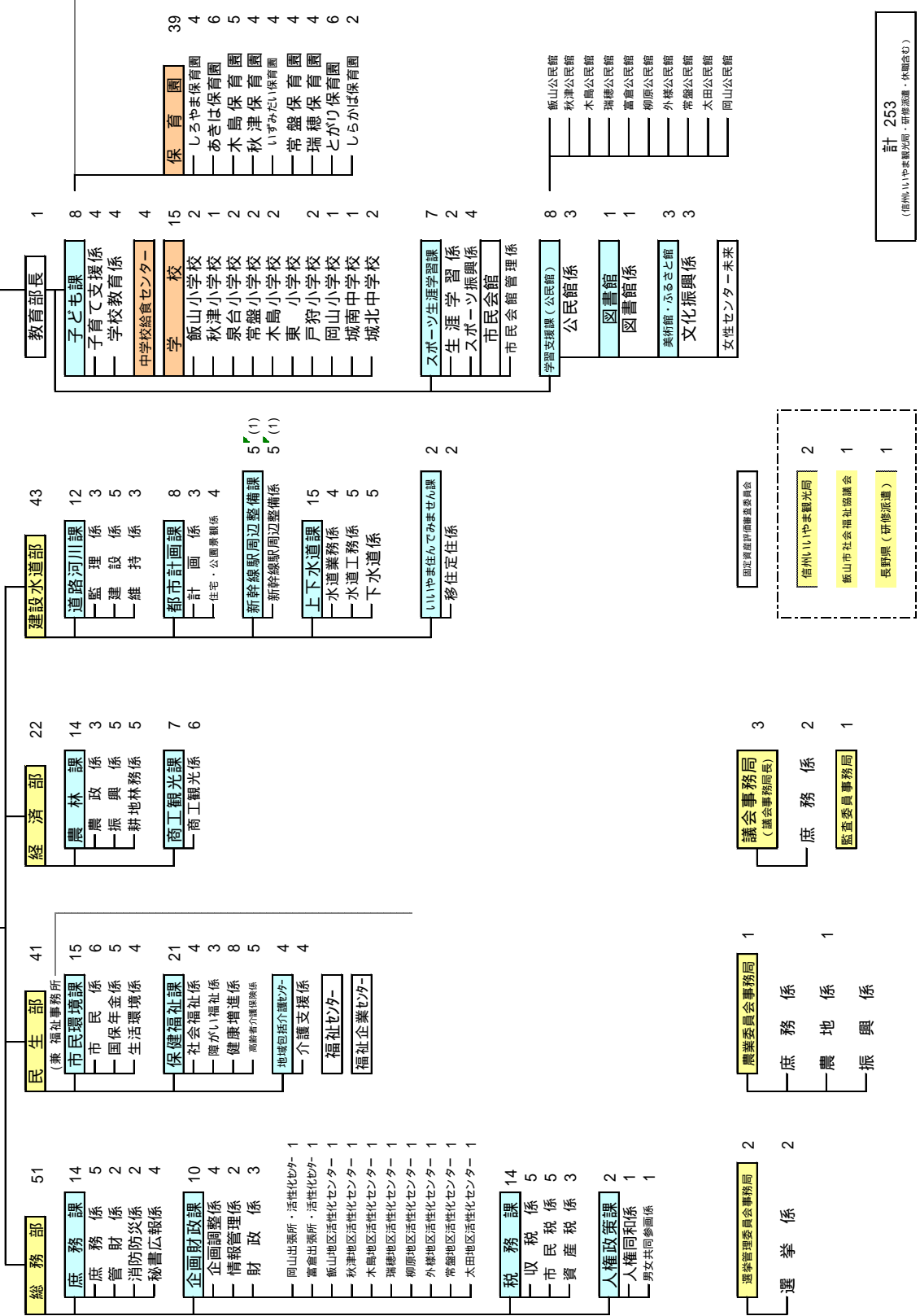
当市の公共施設整備水準は、前回の過疎指定期間に大幅に改善されてはいるが、まだまだ必要な施設整備は残されており、今後も住民要望との調整を図りながら、さらに重点的、効率的な基盤整備に努めたい。

飯山市委组织部組織機構図

(H22.4.1)

市長
副市長

教育委員会
教育委員会事務局
教育 82



計 253
(信州いよま観光局・研修課・休職含む)

表 - 2(1)市町村財政の状況

(単位：千円)

区 分	H12年度	H17年度	H20年度
歳入総額 A	16,806,503	14,994,106	14,962,103
一般財源	10,818,237	10,345,008	10,125,136
国庫支出金	767,703	731,478	1,122,195
都道府県支出金	757,071	457,535	499,071
地方債	1,694,915	891,400	903,200
うち過疎債	1,291,800	0	0
その他	2,768,577	2,568,685	2,312,501
歳入総額 B	16,321,572	14,530,578	14,402,641
義務的経費	5,393,546	5,630,119	5,077,069
投資的経費	3,488,619	1,619,780	2,871,080
うち普通建設事業	3,469,764	1,514,935	2,863,608
その他	7,439,407	7,280,679	6,454,492
過疎対策事業費	2,002,966	0	0
歳入歳出差引額 C(A - B)	484,931	463,528	559,462
翌年度へ繰越すべき財源 D	96,560	22,342	80,806
実質収支 C - D	388,371	441,186	478,656
財政力指数	0.331	0.303	0.319
公債費負担比率	18.8	23.9	21.0
実質公債費比率			18.6
起債制限比率	10.7	12.8	10.8
経常収支比率	82.9	(87.6)91.3	(93.6)96.4
将来負担比率			124.8
地方債現在高	17,734,852	14,475,027.0	10,164,645.0

()内は分母に減税補てん債、臨時財政対策債を含めた数値

表一2(2)主要公共施設等の整備状況

区 分	S45年度末	S55年度末	H2年度末	H12年度末	H20年度末
市町村道					
改良率(%)	22.4	37.4	53.1	57.5	59.4
舗装率(%)	8.7	24.7	40.0	47.4	50.7
耕地1ha当たり農道延長(m)	172.8	190.1	167.9	97.5	105.0
林野1ha当たり林道延長(m)	11.1	2.0	2.9	2.9	2.8
水道普及率(%)	66.0	87.2	88.1	97.0	98.5
水洗化率(%)			90.4	66.7	83.1
人口千人当たり病院、診療所の病床数(床)	6.5	7.7	9.0	11.0	12.1
小学校危険校舎面積比率(%)	2.2	1.5	0	0	0
中学校危険校舎面積比率	0	0	0	0	0

(4) 地域の自立促進の基本方針

前項でも触れたように、これまでの過疎対策により、飯山市の生活空間としての機能は着実に向上してきた。その成果を、過疎法の理念に沿って活かして行くために、次のような視点を加える。

平成 26 年度には、北陸新幹線の金沢まで開通にあわせ JR 飯山駅を併設した新駅が開業し、飯山市は、北信州の玄関口となる。広域観光の推進、新駅と連動した土地利用・新産業の立地、新幹線駅を基軸にした回遊性のあるまちづくりなど、次の四つの柱を中心に重点プロジェクト・重点施策を盛り込み、「子どもに夢と希望を 市民に元気を お年寄りには安心安全を」与えられる飯山市づくりを進める。

四つの柱

- 共存・共栄やさしいまちづくり
- 0 歳からの安心・安全、豊かな教育
- 移住・定住、通勤・通学対策
- 産業の活性化

重点プロジェクト

- 新幹線駅と連動した土地利用の推進
- 新幹線駅開業を見据えた新産業立地、広域観光の推進
- 農産物の高付加価値化
- 移住定住の推進
- 中高年の健康増進と介護予防
- ごみ減量の推進
- 自主防災会の設置と防災意識の高揚

(5) 計画期間

平成 22 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日までとする。

2 産業の振興

(1) 現況と問題点

農林業

当市の耕地の多くは千曲川とその支流の沖積地に開けており、水田単作の米所であったが、米の生産調整や条件不利地域での耕作放棄などを機に栽培面積が減少し、米への依存は低下しつつある。それに替わって花や野菜の畑作農業のウエイトが増し、生産額も米に並ぶものとなっている。特にグリーンアスパラは、生産量日本一を誇るまで産地化がすすみ、市場評価も高いが、近年、連作による生育障害などが顕著となり、頭を痛めている。畑作の基幹生産地は、平成6年に完了した国営飯山農地開発地であり、260haの広大な農地で、意欲ある農業者が大規模農業に取り組んでおり、飯山市の農業を牽引している。

当市は特別豪雪地帯であるため、土地利用型農業は大きな制約を受け、冬期は営農が不可能になる。農家の冬期対策として取り入れられた「きのご栽培」は、種類も、エノキダケ、ホンシメジ、ナメコ、エリンギ、シイタケと、多種に及んでおり、飯山市の農業生産を支えているが、新興地域や大資本の追い上げにより、粗生産額は、ピーク時の約80億円から半減の50億円程度に減少している。しかしながら当市の農業に占める比重は依然大きく、今後さらに激化が予想される産地間競争に耐え得る品質向上、新品目の開発等、積極的に進めなければならない。

農産物輸入自由化等の厳しい状況の中、農業就業人口の減少、農業従事者の高齢化が依然として続いており、担い手の確保が課題となっている。農業所得を向上させるためには、経営の合理化と規模拡大が不可欠である。また、認定農業者、家族経営協定の推進をはじめ、地域営農システムの構築も重要であり、飯山市営農センターを平成10年に設立し、名称を飯山市農業センターに改め、組織化のための展開を進めている。

森林・林業を取り巻く情勢も、木材価格の低迷など農業以上に厳しく、林業によって生計を立てている世帯はほとんど無いという状況にあるが、昨今の森林資源活用の追い風を受け、その可能性に期待が寄せられる環境が芽生えてきた。今後、森林機能の保全や適正管理といった森林本来の役割を増進するとともに、信越トレイルや森林セラピーなど、その特性を生かした新しい空間利用と保健休養地としての活用を、さらに図っていく必要がある。

専・兼別農家数

(単位:戸、%)

	S50年	S55年	S60年	H2年	H7年	H12年	H17年
農家総数	4,644	4,469	4,252	3,815	3,516	3,191	2,907
農家率	60.6	58.4	55.8	50.5	45.6	40.8	37.3
專業農家数	793	774	600	506	432	445	412
構成比	17.1	17.3	14.1	13.3	12.3	13.9	14.2
兼業農家数	3,851	3,695	3,652	3,309	3,084	2,746	2,495
第1種兼業	1,123	1,084	894	680	623	406	388
構成比	24.2	24.3	21.0	17.8	17.7	12.7	13.3
第2種兼業	2,728	2,611	2,758	2,629	2,461	2,340	2,107
構成比	58.7	58.4	64.9	68.9	70.0	73.4	72.5

資料:農林業センサス

経営耕地面積規模別農家数

(単位:戸)

面積	S50年	S55年	S60年	H2年	H7年	H12年	H17年
30a未満	863	837	923	765	794	803	970
30～50a	745	762	724	707	668	553	440
50～70a	751	1,532	665	1,315	1,119	1,047	854
70～100a	914		787				
100～150a	979	916	759	593	526	428	340
150～200a	301	305	265	230	181	150	63
200～250a	71	89	85	74	59	57	
250～300a	11	12	18	25	36	18	
300a以上	5	9	13	33	47	50	52
例外規定	4	7	13	73	86	85	58
総数	4,644	4,469	4,252	3,815	3,516	3,191	2,907

平成7年の30a未満の数は自給的農家である

資料:農林業センサス

農業粗生産額

(単位:百万円)

(12年・17年は単位:千万円)

	S50年	S55年	S60年	H2年	H7年	H12年	H17年
作物	総額	7,067	6,273	6,419	6,348	6,108	439
	米	2,846	2,678	3,113	2,655	2,569	203
	野菜	2,963	2,176	2,370	2,853	2,727	180
	果実	352	535	236	253	125	6
	花卉	303	277	186	449	585	30
	工芸作物	451	492	401	122	71	1
	その他	152	115	113	16	31	19
養蚕	37	13	0	0	0	0	
畜産	総額	1,069	1,122	1,076	815	623	32
	肉用牛	36	32	116	70	32	X
	乳用牛	279	381	361	386	306	12
	養豚	661	647	537	308	248	20
	養鶏	84	58	57	50	37	X
	その他	9	4	5	1	0	0
総額	8,173	7,414	7,497	7,166	6,732	549	
加工農産物収益	0	6	2	3	1	0	
栽培きのご類を含む	10,166	11,564	14,345	16,135	14,446	1,158	

資料:農林業市町村別統計書

きのこ類の栽培戸数等の推移

		S55年	S60年	H2年	H7年	H12年	H17年
えのきだけ	栽培戸数(戸)	515	303	211	142	93	60
	販売量(t)	3,638	3,531	3,554	4,111	5,520	3,700
	販売額(百万円)	2,209	2,205	1,695	1,715	X	X
しめじ	栽培戸数(戸)	150	83	70	18	3	0
	販売量(t)	215	456	138	63	23	0
	販売額(百万円)	179	351	85	26	X	0
ほんしめじ	栽培戸数(戸)	28	85	173	155	132	97
	販売量(t)	247	1,946	7,060	9,634	9,660	7,770
	販売額(百万円)	274	2,004	5,038	5,866	X	X
なめこ	栽培戸数(戸)	115	154	56	59	43	29
	販売量(t)	346	1,036	1,178	1,016	920	802
	販売額(百万円)	343	756	733	543	X	X
しいたけ	栽培戸数(戸)			14	9	4	1
	販売量(t)	2	11	16	7	5	65
	販売額(百万円)	1	14	24	8	X	X
エリンギ	栽培戸数(戸)					2	3
	販売量(t)					3	146
	販売額(百万円)					X	X
計	栽培戸数(戸)	808	625	524	383	277	190
	販売量(t)	4,448	6,980	11,946	14,831	16,131	12,483
	販売額(百万円)	3,006	5,330	7,575	8,158	X	X

資料:農林課

個別農産物の粗生産額順位

(単位:百万円)
(12年・17年は単位:千万円)

		S55年	S60年	H2年	H7年	H12年	H17年
1位	農産物名	米	米	米	米	米	米
	粗生産額	2,678	3,113	2,655	2,569	232	203
	構成比	36.1	41.5	36.4	37.7	41.7	42.0
2位	農産物名	アスパラ	アスパラ	アスパラ	アスパラ	アスパラ	アスパラ
	粗生産額	752	1,216	1,709	1,781	143	117
	構成比	10.1	16.2	23.5	26.2	25.7	24.2
3位	農産物名	豚	豚	牛乳	牛乳	キュウリ	豚
	粗生産額	647	537	333	290	20	20
	構成比	8.7	7.2	4.6	4.3	3.6	4.1

資料:農林課

商業

本市の商店街は、JR 飯山駅前通りから中央通り線沿いに、上町・本町・仲町通りとJR 戸狩野沢温泉駅周辺が商店街として形成されている。飯山商工会議所などと連携を図り、駐車場の整備、アーケードの建設、歩道の無雪化など商店街振興策を進めてきたが、市街地商店街は南北に細長いため回遊性に乏しく、空洞化が進んでいる。一方、農振農用地の適用を除外したことにより静間バイパスに郊外型大型スーパー等の出店が相次ぎ、新しい中心市街地を形成することとなり客の流れは静間方面へと移行しつつある。

商業の推移

(単位:人、万円)

	商店数			従業者数	年間商品販売額	
	総数	卸売	小売			飲食店
S54年	666	40	509	117	2,355	2,865,665
S57年	670	52	520	98	2,404	3,992,589
S60年	635	60	515	60	2,386	5,265,034
S63年	546	49	497		2,243	4,694,562
H 3年	529	53	476		2,302	5,832,230
H 6年	501	50	451		2,214	5,638,433
H 9年	466	43	423		2,206	5,764,621
H11年	472	46	426		2,069	5,200,868
H14年	404	41	363		2,191	4,652,863
H16年	383	33	350		2,116	4,306,223
H19年	353	40	313		2,003	3,955,353

飲食店は、バー、キャバレーを含まない。S63年以降は飲食店を含まない。

平成9年までは3年毎に、以降5年毎に実施し、その中間年(本調査の2年後)に簡易な調査を実施している。(平成11年・16年は簡易調査)

資料:商業統計調査

工業

本市の工業の推移を製造品出荷額で見ると、電機を主力に年々増加してきたが、リーマンショック以降減少をしている。

本市では若者の定住や働く場の確保のため、工業団地の造成、企業立地振興条例の制定など企業誘致を積極的に進めてきたが、近年の長引く景気の低迷と企業の業種別・規模別格差（二極分化）が進む中、産業構造の転換を迫られており、企業誘致と合わせて既存企業の育成、地域の特徴・技術を生かした産業振興を図ることが課題となっている。

飯山仏壇、内山紙は、伝統のある地域の産業であり、本市を特徴付ける産業でもある。生産段階での技術革新に取り組むとともに、後継者確保、販売促進に取り組む必要がある。

また、高速道路4車線化、低料金化により高速道路は利便性が飛躍的に向上した。北陸新幹線飯山駅が開業することにより、首都圏や北陸地方が時間的に近くなった飯山市の魅力を切り口として今後の工業振興を行う必要がある。

工業の推移

	S50年	S55年	S60年	H2年	H7年	H12年	H17年
事業所総数	113	116	141	136	125	103	34
うち法人	65	78	76	75	73	62	33
30人以上	19	19	15	12	15	8	7
従業者数(人)	2,023	2,195	2,398	2,450	2,426	1,760	1,595
現金給与額(万円)	193,752	346,023	495,693	676,835	846,043	731,725	620,188
製造品出荷額(万円)	860,350	1,414,898	3,669,079	5,042,093	7,396,528	4,545,857	4,313,435

資料:工業統計調査

主な製造品出荷額の推移

(単位:千万円)

	S50年	S55年	S60年	H2年	H7年	H12年	H17年
食料	96	141	157	201	240	188	155
繊維	24	35	×	×	×	59	-
木材	54	67	40	32	28	10	7
家具	17	33	40	51	51	32	-
印刷	13	23	27	32	35	37	12
プラスチック	-	-	97	151	154	×	-
土石	62	107	94	128	157	×	-
金属	27	20	34	15	19	38	-
機械	×	×	25	31	47	35	-
電機	119	366	2,392	4,020	6,112	2,786	-

資料:工業統計調査

観光

当市の観光は、雪を資源として利用したスキー場開発と、農家の副業としての民宿から始まった。その後、斑尾高原、飯山国際スキー場等が開発され、スキーを中心とした観光客は順調に推移してきたが、バブル崩壊後の長引く不況、国内のスキー場と宿泊施設の増加に伴う数と質の過当競争、増えないスキー・ボ－ダー人口、標高の低いスキー場の年末年始の雪不足等々により、スキー観光は非常に厳しい時代を迎えている。

このため、グリーン期の観光客誘致が当市にとって大きな課題となり、従来からの夏季合宿に加え、生協との提携によるグリーンライフの推進、グリーンツーリズム推進のための拠点施設建設とソフトの整備、その他自然体験教室やセカンドスクールの誘致、寺めぐり・七福神めぐり、高橋まゆみ人形館の開設など、飯山の自然と農業、寺社等の観光資源を活かしながら観光客の誘致に努めた結果、グリーン期の観光客の入り込みが増加している。

一方でグリーン期の観光客増加に伴い、鍋倉山麓のブナ巨木の保全と観光活用の展開が課題となっている。

観光地利用者数

(単位: 人)

	S50年	S55年	S60年	H2年	H7年	H12年	H17年
斑尾高原	150,600	320,700	425,400	735,600	667,000	811,100	784,500
飯山国際	-	32,500	42,500	43,100	29,100	16,300	-
飯山	52,500	41,500	44,900	51,400	51,400	146,900	182,400
北飯山	30,000	9,100	8,700	8,500	6,900	-	-
信濃平	90,000	67,100	89,200	156,200	129,900	107,200	25,400
戸狩	248,100	230,000	323,500	423,700	528,000	485,900	414,200
北竜湖	58,800	54,100	59,800	53,100	44,800	233,100	34,300
なべくら高原	-	-	-	-	-	35,600	22,000
いいやま湯滝温泉	-	-	-	-	116,900	86,800	54,200
合計	630,000	755,000	994,000	1,471,600	1,574,000	1,922,900	1,517,000

資料: 商工観光課

自然体験教室受入の推移

		H10年	H11年	H12年	H13年	H14年	H15年
戸狩	人数	2,183	3,802	4,996	5,666	5,296	4,183
	延べ泊数	6,375	10,457	14,626	15,710	14,697	12,212
信濃平	人数	1,722	2,271	2,918	2,834	2,830	2,702
	延べ泊数	5,655	7,179	9,493	9,278	9,138	8,107
斑尾	人数						490
	延べ泊数						1,100
合計	人数	3,905	6,073	7,914	8,500	8,126	7,375
	延べ泊数	12,030	17,636	24,119	24,988	23,835	21,419

		H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年
戸狩	人数	5,339	5,247	4,865	5,425	6,551	6,324
	延べ泊数	13,517	12,749	12,026	13,004	15,243	14,233
信濃平	人数	2,042	1,475	922	782	556	335
	延べ泊数	6,260	4,687	2,666	3,112	1,654	838
斑尾	人数	361	374	1,393	700	1,390	1,280
	延べ泊数	732	827	2,786	2,430	3,540	2,800
合計	人数	7,742	7,096	7,180	6,907	8,497	7,939
	延べ泊数	20,509	18,263	17,478	18,546	20,437	17,871

資料: 商工観光課

(2) その対策

農林業

土地利用型農業においては、経営合理化と規模拡大のいわゆる生産性向上、もしくは食の安全性等を追求した付加価値の高い農業、を目指す必要性がある。本市においては、農地の利用集積の円滑化や認定農業者支援をさらに進めると共に、経営の合理化につながる集落営農の推進に努めるものとする。

本市は、日本有数の「きのこの総合産地」であるが、追い上げも激しさを増している。ブランドを一層確立したものとするためには、優れた品質のものを継続的に供給していくことが必要であり、また、安定経営の基盤づくりとして、種菌センターの高度利用と低コスト栽培を進め、規模拡大、作業の合理化、規格の徹底、品質の向上、GAP手法等の導入により他との差別化に努めるものとする。

国営飯山農地開発事業で誕生した 260ha の大規模農地は、生産性の向上を目指した優良畑作地帯である。一帯での農業振興のために、きめ細かい施策導入を図る必要がある。農業にとって雪は、マイナス面が強調されるが、雪を利用した種苗や野菜の貯蔵による遅出しなどの、利雪農業を今後とも推進していく。また観光振興策と連携してグリーンツーリズム（農林環境を活かした滞在型観光）事業を進め、農業生産物の多様な流通を図るとともに、都市住民との関わりを深め、農業理解と飯山ファン作りを通して、農産物の高付加価値化や、観光と連動した農業所得の向上に努める。さらには、農業経営改善支援センター等、農業分野の専門組織を充実さ

せ、新局面に立つ農業の、技術的サポート体制を整え、意欲ある農業者の育成に努めるものとする。

農業後継者対策については、その確保と育成を進めるとともに、高齢化に対応した農業振興並びに、用水路等農業生産基盤の整備に努め、農業生産法人等、農業法人の設立支援により、個別農家の経営体質の強化、所得の向上を図るものとする。また後継者不足による遊休荒廃地拡大の懸念に対して、その実態を把握するとともに、農地として有効活用するため、組織的なサポート体制を備えるものとする。

森林関係については、その公益的機能を高めるとともに、保健休養的、観光的利用対策を推進し、山菜や野草、薬草、きのこ類の「自然の恵み」の有効活用を進める。また、国土保全や低炭素化社会の実現等、森林資源に期待される追い風をしっかりと受け止め、新たな山林活用（林業振興）事業の取り組みを進める。

農林業は、生命産業であり、閉塞感漂う昨今の産業構造を変え得る可能性を秘めている。農林業をベースとした農村環境において、循環型農業や、6次産業としての農産加工等、新しく起業しようとする意欲ある者に対し支援していく。

商業

平成21年度に新幹線飯山駅開業効果を最大限に引き出すためのポイントを明確にし、展開する施策の事業費とスケジュールを盛り込んだ「アクションプラン」を策定し、「回遊性のあるまちづくり」に関する第2次アクションプランを平成22年度に策定した。

今後はプランの実現のため、市民、商業者、行政等の各関係者の理解と協力で、プランのテーマとした「雪国の『歴史と信仰の城下町』四季の彩り魅せる街」へと磨きをかけ、中心市街地の付加価値を高めるための方策を進めていく。

新幹線飯山駅前から静間バイパス沿いのエリアはバランスの取れた土地の有効利用を図りつつ、アクションプランに基づき優良な商業地を形成するものとともに、古い街並みや雁木等の観光の魅力も兼ね備えた商店街への転換を図っていく。

消費者に「行ってみたい」と思わせるような魅力的な商店街づくりを進めるため、商工会議所等との協力体制を強化し、イベントの共同開催や後継者の育成など、知恵を活かしたまちづくりを進める。

商店街の環境整備と振興のため、回遊性を重視した新幹線飯山駅前からの無散水消雪道路や歩行空間の整備を推進し、街路灯の統一的なイメージへの整備や回遊性拠点駐車場の整備、空き店舗の利活用や既存施設の改修等による地域資源を活用した起業支援等の農商工連携による商業団体の育成と活動支援を行う。

都市計画を区域の見直しによる静間地籍のバイパス沿いへの集積が更に拡大することが予想されることから、市街地への顧客吸引力を高めるための施策を推進する。

工業

生涯を託せる魅力ある就業の場を拡大し働く場所を確保するため、企業立地振興条例を生かして優良企業を誘致する。景気低迷により企業誘致が以前よりも厳しい環境下であり、加えてものづくりが生産コストの安価な東南アジアへとシフトするという世界的な潮流を鑑み、飯山市の地域資源を活用した産官学による研究開発を

行う場の創出も取組むものとする。併せて、克雪企業育成対策事業の活用により冬場の条件整備を進め、冬期積雪期の遠距離通勤者援助対策等のために企業従業員住宅の活用を含め雇用条件改善に向けた支援を行う。

また、既存企業の育成及び企業立地振興条例の活用を進め、企業イメージを高めるために重要となる ISO（国際規格）14000 シリーズ登録支援事業を活用し環境 ISO の取得を進める。

飯山仏壇、内山紙、などの地域の産業については、後継者対策を充実させるとともに、異業種交流や新たな技術開発を進め、経営体質の強化に努める。また、奥信濃特産まつり・県伝統工芸品展などを活用し販路の拡大を図る。

地元企業、製品等の PR を行い、地域産業を振興する原動力となる若者が定着するよう企業ガイドブックを活用してリクルート活動への支援を行う。

また、起業の促進としては、伝統的工芸品である飯山仏壇の製造過程に見られる技術（木地組立、彫刻、漆塗装、蒔絵、金箔押しなど）や内山紙の機能性を生かして異業種交流を積極的に推進する中で、後世に伝えるべく研究を推進する。

観光

新幹線時代を迎え、観光客が飯山らしい「魅力や価値」を堪能し、満足できる観光地づくりを目指す。

以前より行っているスキー観光及びグリーンツーリズムについてはより新たなニーズに対応するため、地域資源を活用したメニュー造りや施設整備を行う。

市街地においては、北陸新幹線飯山駅を起点に、高橋まゆみ人形館、城山公園をエリアとする「回遊性のあるまちなか観光」を推進する上で、古くから伝わる雪国飯山の暮らしや文化を、市民自らがそれらに価値を見出し、磨いていくための諸施策を展開する。併せて市街地に重点地域を設定し、統一感あるまち並みの整備を市民と協働で進めるとともに、植栽修景、寺町ガイド及び食の提供を行う人的資源の発掘、訓練及び教育ができる場の創出も行う。

飯山の統一的なイメージを発信するためにインフォメーション機能（特に web や観光案内所、IT 等を活用した案内標識）を充実させた観光地を目指す。特に年々増加している海外旅行者が飯山を楽しむ上で必要な整備はハード・ソフト両面から行う。

飯山市観光協会及び飯山市振興公社が統合し、新たに信州いいやま観光局が平成 22 年 4 月に設立された。今後は農業や商業との連携を図りつつ会員の拡大に取り組み、新たな商品開発など実践組織としての機能強化を図る。新幹線飯山駅開業に向けて、首都圏、関西圏、北陸、海外等でキャンペーンを行い誘客に取り組む。

自立促進 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備考
		<p>ITを活用したまちなか観光推進事業</p> <p>利便性が高いまちなか観光を推進するため、携帯端末を活用したナビゲーションの研究、駐車場誘導システム等のスムーズな車両誘導の研究を行う。</p> <p>歩こさいいやまグレードアップ事業</p> <p>「歩こさいいやま」のマップをベースに、更なる情報強化と時点修正を図り、新幹線開業後を視野に飯山市観光のバイブルとして活用する。</p> <p>地域資源活用型起業支援事業</p> <p>回遊性のあるまちづくりを進めるため、飲食店をはじめとした地域資源を活用した起業に対し補助し、魅力あるまちづくりを行う。</p> <p>観光推進事業</p> <p>観光振興策を一元的に推進する体制が整得るため、飯山市観光協会から移行した信州いいやま観光局の活動を補助し、魅力づくりに取り組み、誘客拡大、受け入れ態勢の充実を目指す。</p> <p>北陸新幹線飯山駅開業記念イベント開催事業</p> <p>平成26年度末の北陸新幹線飯山駅開業を市民挙げて祝い、新幹線開業が過疎脱却の起爆剤となるように、市民の機運を醸成し、記念イベントを開催する。</p>	<p>市</p> <p>市</p> <p>市</p> <p>観光局</p> <p>市</p>	

3 交通通信体系の整備、情報化及び地域間交流の促進

(1) 現況と問題点

新幹線駅飯山駅周辺整備

長野県の北の玄関口として北陸新幹線飯山駅が設置されることを受けて、北信州の新たな交通ネットワークや広域観光ネットワークの形成を進めなければならない状況となっている。このため、将来の土地利用や北信州の玄関口としてのまちづくりを行うこととして新駅周辺の約20haを整備区域に設定し、事業推進を図っているところである。

新幹線飯山駅周辺整備は、まちづくりの基幹となる土地区画整理事業、その他関連事業として駅西地区整備事業、JR飯山線飯山駅移設統合事業及び新幹線駅合築施設整備事業で構成されている。

事業区域7.7haで計画されている土地区画整理事業は、平成19年9月に起工式が行われ、それ以来、関係権利者のご理解、ご協力により、着実に家屋移転、道路築造等が進められてきている。平成21年度末での進捗率は、仮換地指定が地積ベースで約53%となっており、事業費ベースでは現計画に対し約47%である。

今後は、駅前広場等を北信州の玄関口として相応しいものとするため、歩道舗装材、照明、修景等のデザインについて具体化していく必要があり、併せて事業進捗に伴い事業計画を見直す時期にきており、適正な事業計画変更が必要となっている。

駅西地区整備事業及び新幹線駅合築施設整備事業については、基本設計の段階へ進捗しており、JR飯山線飯山駅移設統合事業についても、長野県、JR東日本との協議により整備方針が定まり、今年度から詳細設計が進められる状況となってきた。

いずれの事業も、新幹線建設工事の施行と競合しているため、新幹線駅開業に備えて計画的に事業を進めるためには、工程、安全管理等の施工管理体制も含めて、関係機関等との十分な調整作業を必要としている。

今後は、新幹線開業に伴い大きく変容が予想される交通体系を勘案し、駅周辺整備地区周辺における市街地幹線道路網の検討、整備を推進していく必要がある。

また、基盤整備推進の他、駅周辺のまちづくりによる整備効果の発現を活かした新幹線効果活用のための計画づくりも重要となってきた。

国・県道

市内の国道は、国道117号、292号及び403号の3路線がある。

国道117号は長野市と新潟県小千谷市の国道17号を結ぶ交流促進型広域道路であり、千曲川、JR飯山線を平行して本市を縦断する国道である。市内の道路延長は21kmで、94.5%が改良済みであるが、一部に改良工事、歩道拡幅、渋滞解消の必要区間が存在する。

国道292号は、新潟県上越市を起点とし飯山市富倉地区を経、中野市から志賀高原に通じる地域形成型広域道路である。市内の改良率は84.8%で富倉地籍の改良事業は完了見込みであるが、引き続き幅員狭小の大川隧道の整備が望まれる。

国道403号線は、新潟県新潟市を起点とし、上越市より飯山市岡山地区を経、

中央橋より、木島平村を経て山ノ内町北志賀高原に通じる地域形成型広域道路であり、かねてから要望してきた中央橋の架け替え事業が、新幹線開業にあわせた完成を目指し始まった。各国道とも平成26年度末に開業予定の北陸新幹線飯山駅から各観光地へ通じる重要な骨格軸である。

主要地方道は4路線、県道は12路線あり、延長は83.7km、改良率77.9%である。いずれも国道を補完する市町村間、地区間及び新幹線飯山駅より観光地へ通じる主要道路であるが、狭隘部分、交差点改良、歩道拡幅等の必要な箇所が存在する。

なお、本市は特別豪雪地帯であるため道路除雪は重要な課題であり、都市機能にあわせた堆雪帯の設置、歩道除雪、散水消雪・無散水融雪施設の整備が必要であり、近年は消雪施設の更新も課題となっている。

国県道路の整備状況

		路線数	実延長(m)	改良率(%)	舗装率(%)
国道	117号	1	21,018.3	94.5	100
	292号	1	11,546.3	84.8	100
	403号	1	15,716.2	62.8	99.7
	計	3	48,280.8	81.9	99.9
県道	主要地方道	4	41,360.2	93.8	100
	一般県道	12	42,329.0	62.4	88.1
	計	16	83,689.2	77.9	94
合計		19	131,970.0	79.3	96.1

資料:北信建設事務所(H21.4.1現在)

市道

市道は平成21年当初で1,597路線、758.9kmに及ぶ。1級市道は国・県道を補完し、国県道の代替機能を持った幹線市道で33路線ある。2級市道は幹線市道を補完し集落間を結ぶ補助幹線市道であり41路線ある。その他市道は1,523路線あり地域住民の生活に密着した生活に欠かせない市道である。

現在、市が発注する工事の他に、住民と行政の協働の精神による「協働の道づくり」事業を進めている。

本市は先に述べたとおり特別豪雪地帯であり、市道は10cmの積雪で除雪の出勤をしており、除雪延長は358.3kmで市道全体の46.7%となっている。また、散水消雪、無散水融雪道路は市街地を中心に約28km設置されている。

現在、機械除雪を主として道路除雪を行っているが、雪の突き出し場、堆雪場の確保が難しくなっている。また、除雪路線及び延長の増加、交通量の増大と車両の大型化、凍上等による路面・消雪施設、橋梁等道路施設の損傷が激しく、効率的補修、長寿命化工事等計画的な維持補修の事業が大きな課題となっている。

市道の整備状況

市道	1級	33	75,702.5	91.1	91
	2級	41	46,155.9	84.5	86.4
	その他	1,523	637,006.8	53.8	43.3
合計		1,597	758,865.2	59.4	50.7

資料: 道路河川課 (H21.4.1 現在)

市道の除排雪状況

	S 55 年	S 60 年	H 2 年	H 7 年	H 12 年	H 17 年	H 21 年
市道総延長 (km)	583.0	647.0	691.9	686.9	727.30	743.90	766.80
除雪延長 (km)	208.8	242.7	275.8	290.9	316.65	334.32	358.31
実施率 (%)	35.8	37.5	39.9	42.3	43.50	44.90	46.70
消雪パイプ布設延長 (km)	7.8	9.9	14.3	14.6	20.58	24.07	25.23
歩道除雪 (km)	1.3	1.3	1.4	6.1	13.75	14.40	29.42
除雪機械 (台)	30	37	41	57	71	74	79
市	12	15	18	21	27	27	29
委託	18	22	23	36	44	47	50

資料: 道路河川課 除雪事業計画書

くらしと交通安全

道路は最も身近な社会資本であり、人や物の移動を活発化させ、社会経済の活力を支えるとともに、そこで生活する人々が快適で暮らしやすい道路空間の創出が必要であり、特に子どもや高齢者等の交通弱者を交通事故から守り安心・安全を確保しなければならない。

特別豪雪地帯の本市では冬期間の除雪が課題であり、子どもの通学、お年寄りの移動、雪道になれない観光客等のため、除雪の出来る歩道の設置、歩道の消融雪化等が必要であり、近年は歩道除雪の要望も多く、歩行者の安全確保の観点からも重要な課題となっている。また、歩行者の安全のため拡幅等丁寧な除雪が必要であり、10t以上もある除雪車の除雪作業により、除雪のない道路に比して路面の傷みが著しく進行している。

近年は高齢者の移動手段として「電動車椅子」が普及しており、傷んだ路面での通行は危険な状態となっている。また、自転車の子どもにも傷んだ路面は交通安全上危険であり今後の道路舗装面の整備が課題となっている。

併せて、小中学生の通学路の歩行空間の整備、道路照明、道路標識等の要望も多く寄せられている。

公共交通

市内にはJR飯山線、また、路線バスでは長電バス5路線が運行しており、これらの公共交通機関は市民の日常生活に欠かすことのできないものである。

路線バスの乗客数は昭和45年頃をピークに年々減り続けている。この路線バスの運行を維持するため、本市では毎年約3,000万円を負担している。さらに、路線バス交通の不足分をコミュニティバス及びデマンドタクシーにより補い、住民の利便性の向上に努めている。

鉄道の乗客数についてもピークは昭和45年頃にあり、平成17年と比較すると、飯山駅34%、戸狩野沢温泉駅35%であり、マイカーの普及と過疎化の進行が減少傾向をいっそう進めていると思われる。

北陸新幹線については、現在長野・金沢間の工事も順調に進められており、市内における土木工事も来年秋までには完成する予定である。しかしながらこの区間の1日も早い完成と、北陸新幹線の大阪までの早期全線整備に向けた運動を展開する必要がある。

鉄道主要駅乗客数(一日平均)

(単位:人)

	S30年	S35年	S40年	S45年	S50年	S55年
飯山駅	783	1,168	1,607	1,845	1,623	1,330
戸狩野沢温泉駅	301	444	861	999	968	802
桑名川駅	79	95	148	206	319	191

	S60年	H2年	H7年	H12年	H17年
飯山駅	1,203	1,050	912	723	636
戸狩野沢温泉駅	620	691	559	443	350
桑名川駅	142	34	39	-	-

資料:JR東日本

路線バス輸送状況

	S50年	S55年	S60年	H2年	H7年	H12年	H17年
系統数	11	10	9	26	21	22	16
1日当たり 運行回数(往復)	136.5	139.5	116.5	98.0	82.0	78.0	67.5
年間輸送人員(人)	2,300,395	1,594,403	1,128,498	1,190,391	966,825	830,503	674,368

資料:信州バス

コミュニティバス輸送状況

	S50年	S55年	S60年	H2年	H7年	H12年	H17年
系統数	-	-	-	-	-	8	7
1日当たり 運行回数(往復)	-	-	-	-	-	34.0	36.0
年間輸送人員(人)	-	-	-	-	-	10,092	34,189

地域情報化

電話や、携帯電話通信エリアについては、十分に行き渡ったものとなっている。

市内には、テレビの難視聴地域が多かったが、その解消のため平成 14 年にケーブルテレビ i ネット飯山を開局し、市内全域で、鮮明な画像を得られるようになった。

また、ケーブルテレビ網を整備したことにより、市内全域でブロードバンドによるインターネット利用が可能となった。

住民生活の利便性の向上を図るため、ケーブルテレビ、防災行政用無線やホームページ等を活用した積極的な情報発信が必要となる。

地域間交流

グリーンツーリズムなどにより国内の都市住民は元より海外の旅行者との交流を図り、自然豊かな地域の魅力をアピールし、地域資源の活用を進めている。

また、自然体験教室を設け、平成 21 年度で年間 57 校、延べ 17,871 泊の実績を上げている。その結果、地元の子供との交流も芽生え始めており、成人してからの交流の基礎となるものと期待されている。

インターネットのホームページを開設し、内外に地域の情報を提供している。

東京近郊に在住する飯山市出身者で組織される「ふるさと飯山会」の活動を通し、故郷との絆を深めてもらっている。

自然体験教室受入の推移

		H10年	H11年	H12年	H13年	H14年	H15年
戸 狩	人 数	2,183	3,802	4,996	5,666	5,296	4,183
	延べ泊数	6,375	10,457	14,626	15,710	14,697	12,212
信濃平	人 数	1,722	2,271	2,918	2,834	2,830	2,702
	延べ泊数	5,655	7,179	9,493	9,278	9,138	8,107
斑 尾	人 数						490
	延べ泊数						1,100
合 計	人 数	3,905	6,073	7,914	8,500	8,126	7,375
	延べ泊数	12,030	17,636	24,119	24,988	23,835	21,419

		H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年
戸 狩	人 数	5,339	5,247	4,865	5,425	6,551	6,324
	延べ泊数	13,517	12,749	12,026	13,004	15,243	14,233
信濃平	人 数	2,042	1,475	922	782	556	335
	延べ泊数	6,260	4,687	2,666	3,112	1,654	838
斑 尾	人 数	361	374	1,393	700	1,390	1,280
	延べ泊数	732	827	2,786	2,430	3,540	2,800
合 計	人 数	7,742	7,096	7,180	6,907	8,497	7,939
	延べ泊数	20,509	18,263	17,478	18,546	20,437	17,871

資料: 商工観光課

(2) その対策

新幹線駅飯山駅周辺整備

土地区画整理事業については、具体的なイメージがつかめる手段を用いた北信州の玄関口に相応しい統一されたデザインの検討を進め、駅前広場整備等についてグレードアップを図る。また、事業計画については、過年度整備実績を踏まえ再精査した上で現事業計画の見直しを進め、今後のグレードアップ整備費用分を加味し適正な事業計画の作成を行う。

施行管理体制としては、新幹線建設工事との工程、安全管理の充実を図る。

駅西地区整備事業については、整備範囲が新幹線建設工事の軌道基地（レール搬入）としての利用が計画されているため、鉄道運輸機構との綿密な工程調整を図る。

JR 飯山線飯山駅移設統合事業については、設計協定、施行協定の締結に向けて、長野県及びJR東日本との協議を進め、飯山市が負担すべき適正な事業費を確定していく。

新幹線駅舎施設整備事業については、新幹線駅舎建設工事と一体的な施設整備であり、鉄道運輸機構側とスケジュール及びデザイン等について十分に調整を図る。

駅周辺整備地区周辺の市街地幹線道路網については、新幹線開業に伴い大きく変容が予想される交通体系を勘案して、整備方針について検討する。

また、これら基盤整備事業推進の他に、駅周辺のまちづくりによる整備効果の発現を活かした新幹線効果活用のための具体的な計画づくりと土地利用を推進する。

国・県道

国県道は、長野県の管理する道路であるが、広域都市間交通をはじめ、新幹線飯山駅は長野県の北の玄関口で志賀高原、妙高高原、野沢温泉、斑尾高原、さらには小布施まで駅勢圏であり、新幹線飯山駅からの二次交通のためにも各国県道の改良等の要望を引き続き行う。

具体的には、国道117号は秋津地区五位野地籍の車道及び歩道の拡幅、国道292号では富倉バイパスの事業促進と大川隧道の改修調査促進、国道403号は新幹線開業までの中央橋の架け替え及び木島地区の改良促進の要望を行う。

県道では、(主)飯山野沢温泉線戸那子地籍の改良整備、(主)上越飯山線温井地籍～県境付近の改良整備、(一)曾根藤木線全線の交通安全施設整備、(一)箕作飯山線の狭窄部分の拡幅整備、(一)斑尾大川線の勾配及び線形の修正を要望する。

また、散水消雪無散水融雪、防雪施設、歩道除雪などの雪対策を併せて要望してゆく。

市道

1、2級の主要市道は、国県道間の補助幹線道路及び地区間の交通を確保するため法令に定められた構造の道路とし計画的な事業を進める。また、市道4-116号線について、引き続き、県過疎代行事業の整備促進を要望する。

その他市道は字町、集落内の生活道路及び山間地域の道路であるため、消防、救急活動ができ、冬期間の除雪が容易に出来る道路とする。また、飯山市では「協働のみ

ちづくり」事業として、市が材料費と重機借り上げ代を持ち、地域では道路敷地と地域住民上げての工事を協働の力で行っています。本事業を引き続き行いますが、住宅密集地、難工事等は市での道路改良事業として行う。

除雪事業では、委託もあわせ79台の除雪機械で作業をしており、市ではその内29台所有している、毎年1～2台から更新をしており引き続き計画的な増強、更新を行う。また、機械除雪では雪の突き出し場、堆雪場の確保が欠かせないため、住宅密集地等での計画的な土地確保を行う。

市街地及び主要市道を中心に散水消雪、無散水融雪が設置されているが、重要な市道、除雪の困難な市道での要望が多くあり、今後計画的な事業の実施を行う。また、消雪施設は昭和40年代の施設もあり、井戸の老朽化、管の閉塞等が多く計画的な更新事業を行う。

くらしと交通安全

市街地では、小・中学校通学路、公共施設、高齢者等福祉施設、観光計画での回遊路線等を中心とした歩行者ネットワークを中心に消融雪施設を含む歩行空間の整備、及び補修を行う。

郊外地区では、小・中学校の通学路を中心に冬期間の歩行者ネットワーク「ゆきみち計画」の作成を行い、それに伴う歩道の整備・除雪・補修を行う。

路面の整備では、保育園、小・中学校、福祉施設、高齢者施設等及び観光ネットワーク路線を中心に、歩道及び歩道のない車道のオーバーレイを含む舗装の補修を行う。

公共交通

北陸新幹線の開通に伴い交通結節点となる新幹線飯山駅周辺整備や交通網の整備を重点的に推進する。特に、新幹線飯山駅は、広域観光の拠点となることから、広域観光を想定した観光2次交通網の構築に向けた検討を進めるほか、既存鉄道についても、観光客の誘客拡大をめざしてハイブリッドシステムを搭載したりリゾートトレインの導入や時間短縮、新幹線との接続等利用しやすいダイヤ編成などを要望するとともに、広域観光拠点を視野に入れた駅周辺の駐車・駐輪場の整備を図る。

路線バスについては、廃止代替路線を中心に路線の確保を図りながら、将来的なあり方について検討を始める。

また、高齢化の進行によりバス交通の重要性は増しており、従来バス路線の無かった地域へも予約型乗合タクシー（菜の花タクシー）やコミュニティーバス（菜の花バス）を運行することにより、高齢者を中心とする交通弱者の利便性の確保を図るとともに、バス交通の重要性を市民にアピールし、既存路線を含めた利用促進を図る。

地域情報化

行政サービスの効率化、また、市民の利便性の向上のために、ケーブルテレビ網の活用と防災行政用無線のデジタル化など、情報技術（IT）の発達に応じた地域情報化の推進を図る。

地域間交流

自然体験や地域の風土を活かしたグリーンツーリズムをはじめ、国内の都市住民は元より海外の旅行者との交流を促進することにより、地域の魅力をアピールすると同時に、新たな産業の展開など地域の振興にもつなげる。

引き続き積極的に修学旅行を受け入れ、国内外の都市部の子供たちへ飯山の自然の素晴らしさを伝えることにより、将来の交流の基礎をつくる。

インターネットのホームページなどを利用し、積極的に情報を発信提供する。

また、地域資源を広域的に結び付けた北信地域としての取り組みにも参加し、広域観光ルートの策定等、積極的に地域内外との交流を図る。

移住定住

市制発足以来人口減少が続いており、活力ある地域づくりには人口維持・増加対策が急務である。2014 年度末の北陸新幹線飯山駅開業を契機に、交流人口の増加から定住人口の増加を目指す施策として、子育て支援や雇用の場の確保などの施策とともに、IJU ターンなどライフスタイルに応じた移住・定住施策を推進する。

移住定住の推進にあたっては、主に都市住民を対象としたセミナーの開催や HP など積極的に地域の情報発信を行うとともに、飯山暮らしを体験する滞在企画の提供、空き家見学会、住宅建設補助など多様なニーズに応じたサービスを充実させ、なお一層の移住・定住を図る。

(3) 計画

事業計画(平成22年度～27年度)

自立促進 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備 考
2 交通通信体系の整備、 情報化及び 地域間交流 の促進	(1) 市町村道 道 路	市道新設改良事業	市	
		市道舗装事業	市	
		散水・無散水消雪施設整備事業	市	
		流雪溝整備事業	市	
		新飯山高校周辺主要道路整備事業([都]八幡線)	市	
		新幹線駅南地区都市計画道路新設事業(静間線)	市	
		新幹線駅南地区都市計画道路新設事業(新町線)	市	
		広域道路整備事業	市	
		駅西線整備事業	市	
	(5)電気通信施設 等情報化のため の施設 防災行政用 無線施設	区画整理(市道整備分)	市	
	新幹線関連道路水路改良事業	市		
(10) 過疎地域自 立促進特別事業	防災行政用無線施設整備事業	市		
	公共交通再生総合事業 市内バス交通について、現在のバスに関する実態調査、問題点・課題を抽出、市民の利便性を高めるとともにコストの削減を図るための改善案を作成し、実証運行を行う。	市		
	市道舗装修繕事業 財政難で補修ができず通行に支障をきたしていた市道のオーバーレイを行い、地域住民が安全に安心して暮らすことのできる道路整備を行う。	市		
	統合型GISコンテンツ情報発信事業 市が所有する都市計画図等をデジタル化するとともに、GISコンテンツの外部配信により市民の利便性を高めると同時に外部への観光案内マップとしての活用を行う。	市	H23 追加	
(11) その他	新幹線通勤助成事業	市		

4 生活環境の整備

(1) 現況と問題点

簡易水道・飲料水供給施設

昭和31年に認可された中条簡易水道を皮切りに、現在15地区の簡易水道、5地区の飲料水供給施設が存在し、給水人口5,744人・普及率97%となっている。これら簡易水道については平成12年度から順次統合し現在に至っている。

水源は、「湧水・地下水」とその地域にあった自然水を利用して「安全・安心・安定的な供給」をスローガンに飲料水を供給し、市民生活向上に大きく寄与しているところである。

昨今、経済の低迷、趣味の多様化によるスキー人口の減少・宿泊費の低廉によるスキー場関係の収入減による影響か、一般家庭を含むスキー場関係の水道料の滞納者が増加している状況で、今後の経営に影響が心配される。

検針、使用料の徴収、動力費の支払い等の経営は業務と配水管布設替工事・配水池・ポンプ運転等施設の維持管理は工務係で行っている。

水道施設は24時間監視体制で突発事故への対応が必要だが、直接職員が各設置を管理することは不可能であり、中央監視装置（テレメーター）に頼っている状況であり、テレメーターもなく地元で監視を委託している地区もある。

これら施設は設置後10年余り経過し、老朽化による故障及び管理者からの通報の遅れにより、広範囲・長時間の断水になる可能性があり、また、監視は漏水量調査の点からも重要なデータが得られる。

導水管・配水管では、河川・水路トンネル内に無造作に置いた状況の地区もあり、過去に管離脱事故による断水を生じたところもある。

飯山市上水道の経過

	認可年月日	計画給水人口	一日最大給水量
創設(旧飯山町)	S28.3.4	12,000	2,160
第1次拡張	S35.12.28	26,000	5,200
第2次拡張	S38.6.4	26,000	5,200
第3次拡張	S43.3.30	19,500	5,200
第4次拡張	S45.3.31	19,500	5,200
第5次拡張	S51.6.23	19,500	8,000
第6次拡張	S58.4.26	19,500	10,900
第7次拡張	S60.3.30	20,000	13,700
第8次拡張	H4.5.1	20,000	13,700
第9次拡張	H11.12.7	20,000	11,600
第9次拡張の変更	H13.2.20	20,000	11,600

資料:上下水道課

創設は市制施行前

上水道の概況

(H22.3.31現在)

	認可年月	源泉種別	給水戸数	給水人口	普及率	年間有収水量
飯山市上下水道	S28.3.4	表流水・湧水・地下水	6,049	17,986	98	2,011,803
外様西部	H11.1.25	地下水	130	424	96	32,112
太田南部	H6.3.31	伏流水・湧水	190	589	96	40,912
藤沢桑名川	H15.3.28	湧水	191	460	100	37,313
三郷	S63.12.28	湧水	70	223	100	10,669
小菅	S49.3.30	湧水	63	162	100	7,430
中谷	S55.6.10	表流水・湧水	38	83	99	5,140
北瑞	H14.3.31	地下水	175	520	97	34,100
温井上境	H20.3.28	地下水・湧水	152	434	100	38,046
瑞穂中央	H12.1.14	湧水	111	353	81	28,176
四郷	H11.3.18	地下水	122	395	100	20,037
斑尾	H14.3.31	地下水・湧水	111	250	100	205,581
羽広山	H7.3.31	地下水	27	71	100	3,563
土倉・柄山	H9.7	表流水	19	40	100	4,632
三郷(太田)	H9.7	湧水	28	95	100	5,682
瑞穂南部	H11.4.1	湧水・地下水	206	715	95	56,593
神戸	H11.3.18	湧水	54	162	100	11,559
旭北部	H22.3.17	地下水	150	575	100	6,412
西大滝	H7.3.31	湧水	59	138	100	9,952
下境	s36.10	湧水	17	38	100	2,179
濁池	S54.4.1	湧水	9	17	90	643

資料:上下水道課

生活排水処理

ア 下水道

当市の下水道事業は昭和 60 年から開始され、現在市内には公共下水道が 2 処理区、特定環境保全公共下水道が 2 処理区、農業集落排水施設が 9 処理区あり、北陸新幹線飯山駅周辺整備区域を残し、計画どおり完成し供用されている。

下水道（集合処理）区域の人口普及率は市全体の 97.7%と高く、一部山間地域（合併処理浄化槽整備区域）を除き、ほぼ全市に普及している。供用区域内の水洗化率は 85%を超えているが、処理区によりばらつきがあり、今後も引き続き水洗化率の向上が求められている。

下水道の普及により、河川汚濁の大きな要因であった家庭雑排水が河川に放流されず、生活水域の河川の浄化が著しく向上した。

使用料については、公共下水道、特環下水道、農集排で 5 つの料金体系に分かれている。同じ生活排水を処理する下水道であるので、公平な受益者負担という観点から、将来的には市内統一料金にする必要がある。

下水道事業は、処理場及び管路整備に多額の資本投資をしており、その財源の多くを起債で賄ってきた。当市は残高のピークは過ぎているものの、依然 147 億円余の残高があり、その償還の大部分は一般会計からの繰入金で賄わざるを得ない。今後施設の老朽化に伴う修繕・改築等も増えると想定され、より計画的な下水道経営が求められる。

イ 合併処理浄化槽

公共下水道、特環下水道、農集排といった集合処理区域以外の山間地域については、費用対効果を検証し、戸別の合併処理浄化槽での生活排水処理をお願いしている。しかしながら当該地域は高齢化及び過疎化が進んでおり、水洗化率は22%台と低迷し合併処理浄化槽整備が遅々として進んでいない。

飯山市生活排水処理の概要（H22.3.31現在）

処理区名		供用開始	整備済面積 (ha)	処理区域内人口 (人)	水洗化人口 (人)	水洗化率 (%)
公共下水道	飯山	H9.3.21	482.35	11,144	9,111	81.8
	木島	H11.3.25	100.09	2,091	1,849	88.4
特環公共 下水道	戸狩	H3.10.16	266.46	4,348	3,936	90.5
	斑尾	H14.10.1	40.19	166	41	24.7
農業集落 排水	木島	H1.4.20	24.00	690	621	90.0
	常盤第一	H4.3.3	42.00	1,054	1,018	96.6
	常盤第二	H7.8.29	67.00	1,286	1,205	93.7
	木島南部	H8.8.12	14.00	314	302	96.3
	羽広山	H7.7.3	5.00	71	66	93.0
	温井	H9.9.11	18.00	217	207	95.4
	北瑞	H10.8.7	36.00	562	508	90.4
	瑞穂	H13.8.1	87.00	1,504	1,207	80.3
	照岡	H13.8.7	55.00	608	465	76.5
合併処理浄化槽				527	118	22.4
計			1,237.09	24,582	20,654	84.0
公共下水道未供用区域(新幹線駅周辺)				36		
合計				24,618		

(注)人口は外国人を含む

廃棄物処理

ア ごみ処理

当市では、約 440 カ所のごみステーションで可燃ごみ、不燃ごみ及びプラスチック製容器包装を、約 130 ヶ所の資源物回収ステーションで古紙、ガラスびん及びペットボトルを定期的に回収している。

収集ごみ等は、平成 21 年から稼働した岳北ごみ処理施設「エコパーク寒川」において野沢温泉村及び木島平村と共同で処理されており、平成 21 年度の本市のごみ処理量は、5,531t であり、市民一人当たり年間 227kg を処理したことになる。

資源物の回収量は、古紙 580t、ガラスびん 146t、ペットボトル 43 t、プラスチック製容器包装 162t、ごみと資源物を併せた処理量は 6,462t であった。

エコパーク寒川に搬入された可燃ごみ及び不燃ごみは、破碎・焼却等の処理を行った後、鉄・アルミについては資源として売却し、焼却灰は野沢温泉村にある岳北広域行政組合の最終処分場で埋立処分されている。

また、ガラスびんとペットボトルは、エコパーク寒川内のストックヤードで一時的保管した後、指定法人に引渡し、古紙は回収後、古紙問屋へ運搬し、再資源化しているほか、平成 15 年より分別収集を開始したプラスチック製容器包装については、民間業者で中間処理を行った後に指定法人に引渡し、再資源化を行っている。

分別収集の導入により、ごみの排出量は一定の減少傾向にあるが、エコパーク寒川の処理能力は 35t/日と従来の処理施設より抑えられているため、現在の排出量を維持していくことが求められる。

イ し尿処理

雪国の特徴として、例年、降雪前と融雪後にくみ取りが殺到する傾向があり、収集が間に合わない状況が出てくるため、本市では、平成 11 年 10 月から希望者を対象に計画収集を実施している。

各家庭から収集したし尿や浄化槽汚泥は、岳北広域行政組合のし尿処理施設「グリーンパークみゆき野」において木島平村及び野沢温泉村と共同処理を行っている。

平成 12 年 4 月から稼働を開始したグリーンパークみゆき野の処理能力は、下水道の普及率を見越し、従来の岳北衛生センターの半分以下（35kl/日）に抑えられている。

公共下水道、各地区の農業集落排水施設等の整備により、各家庭でのつなぎ込みが順次行われており、くみ取り量は減少してきているが、まだ 1 割強の世帯はくみ取りに頼っている状況にある。

下水道へのつなぎ込みによりし尿等のくみ取り量が年々減少する中で、下水道処理施設へのし尿投入など合理的な処理方法を含め、グリーンパークみゆき野の運営のあり方が今後の課題である。

ごみ・し尿処理状況

	し尿処理 (単位:kl)			ごみ処理 (単位:t)						
	計	し尿	浄化槽汚泥	計	可燃ごみ	不燃ごみ	古紙	ガラスびん	ペットボトル	プラ製容器
S55年	14,071	13,055	1,016	5,618	4,570	1,048				
S56年	14,421	13,434	987	4,032	2,984	1,048				
S57年	15,170	14,413	757	4,096	3,072	1,024				
S58年	16,084	15,084	1,000	4,327	3,254	1,073				
S59年	16,380	14,920	1,460	4,948	3,540	1,408				
S60年	15,940	14,996	944	3,933	2,804	1,129				
S61年	16,839	15,597	1,242	3,841	2,813	1,028				
S62年	16,872	15,802	1,070	4,142	3,127	1,015				
S63年	18,181	16,947	1,234	4,503	3,415	1,088				
H元年	18,408	17,077	1,331	4,624	3,508	1,116				
H2年	18,875	17,334	1,541	4,697	3,566	1,131				
H3年	19,736	18,239	1,497	5,006	3,706	1,300				
H4年	19,032	17,716	1,316	5,163	3,803	1,360				
H5年	18,389	16,821	1,568	4,994	3,601	1,170	223			
H6年	17,784	15,970	1,814	5,189	3,686	1,149	354			
H7年	17,825	16,286	1,539	5,372	3,862	1,095	415			
H8年	17,523	15,793	1,730	5,548	4,049	1,083	416			
H9年	16,173	14,806	1,367	5,510	4,082	985	443			
H10年	14,690	13,664	1,026	5,723	4,420	831	416	56		
H11年	13,812	12,657	1,155	6,104	4,677	710	522	181	14	
H12年	12,259	10,828	1,431	6,581	5,014	731	612	193	31	
H13年	10,990	9,599	1,391	6,581	4,927	607	807	200	40	
H14年	8,921	7,332	1,589	7,184	5,509	631	814	188	42	
H15年	7,790	6,393	1,397	7,171	5,224	603	904	193	64	183
H16年	6,267	4,869	1,398	7,068	5,303	546	793	180	68	178
H17年	6,424	4,207	2,217	7,227	5,495	557	766	169	66	174
H18年	7,655	3,653	4,002	7,189	5,412	612	756	173	62	174
H19年	7,019	3,056	3,963	6,947	5,363	529	670	163	49	173
H20年	5,381	2,949	2,432	6,649	5,167	500	618	153	45	166
H21年	5,141	2,599	2,542	6,462	5,028	503	580	146	43	162

資料:市民環境課

消防・防災

消防は、昭和 48 年に設置された岳北消防本部（岳北広域行政組合）が中心となつて、広域的に対応している。消防本部の体制は消防ポンプ自動車 4 台、化学消防車 1 台、救急自動車 4 台、本部職員 65 人という内容である。

非常備消防組織として、飯山市消防団（10 分団、850 人）がある。消防体制で課題となるのは、まず昼間の火災等団員が集まりにくい場合でも迅速に対応できる体制づくりである。少ない人員でも対応が可能となるよう、分団各部に軽積載自動車を配備してきているが、この軽積載自動車の定期的な更新が必要となっている。

次に雪のため、水利を確保することが難しくなる冬の火災が課題である。積雪型消火栓が設置されてきてはいるが、さらに充実していく必要がある。

また、緊急時のために消防施設の通常時の点検等維持管理を行なうとともに、定期的な更新も進める必要がある。

防災については、古くから千曲川の洪水に悩まされる地形にあり、昭和 57、58 年と連続して堤防決壊による大水害が発生した。

また、隣接する新潟県において発生した中越地震、中越沖地震では、当市でも最大で震度 5 強を記録し、住宅倒壊等の被害も発生した。

これらの災害に対応するため、平成 18 年から市内各地区に自主防災会の設立を進め、81 組織、組織率 75.7%、人口比率 82.9%となっている。

全地区での組織化を目指すとともに、既設立組織においても活動の訓練や資機材の備蓄をすすめていく必要がある。

消防団の概況

消防団と団員		消防ポンプ			消防水利	
分団数	団員数	ポンプ自動車	軽積載車 (ポンプ含む)	小型動力ポンプ	防火水槽	消火栓
10	850	9	44	39	136	1,172

治安状況

H21.3.31現在

	S51～55	S56～60	S61～H2	H3～7	H8～12	H13～17
火災発生件数	57	51	59	69	42	65
住宅	31	32	28	26	12	22
非住宅	18	11	16	17	16	18
林野	7	2	8	9	2	9
その他	1	6	7	17	12	16
交通事故発生件数	508	550	800	876	687	635
死者	24	21	22	33	16	13
傷者	656	696	1,038	1,159	902	852
刑法犯罪発生件数	1,149	1,264	1,247	1,315	2,263	2,821
窃盗犯	796	1,078	1,006	1,228	2,168	2,453
粗暴犯	71	45	41	24	16	31
知能犯	156	82	142	36	47	75
凶悪犯	14	6	7	10	1	2
その他	112	53	51	17	31	260

資料：岳北消防本部、飯山警察署

景観形成

当市は豊かな自然に恵まれ、由緒ある歴史と伝統文化が息づいている地域である。城山公園（城址公園）などは観光資源として活用され、また、市民の憩いの場にもなっているが、個性を損なうことなく、飯山の歴史と自然にふさわしいものに整備していく必要がある。

国道 117 号線の沿道等に市民の協力を得て実施しているフラワーロード事業（花の植栽）は、市民の関心も高く、また沿道景観に大変寄与している。

看板類等の屋外広告物については、県の屋外広告物条例や飯山市沿道景観維持に関する指導要綱等を基に規制をしているが、国道 117 号線の静間地籍は商業施設が集積していることもあり、良好な沿道景観づくりの課題となっている。

景観づくりについては少しずつ市民の中に浸透しつつあるが、景観に比べれば日常生活での暮らしやすさが優先される傾向にある。

公園

市内には都市公園（市条例指定含む）が 4 カ所あり、市民の憩いの場所になっている。公園の整備については以前から必要に応じ実施しているが、特に城山公園については園路の傷みや老朽樹木が多くなっており、飯山市のシンボルとして市民が利用しやすく、また、観光資源としての公園整備をしていく必要がある。

住宅

過疎化に歯止めをかけるには、住みよい住環境整備と良質な住宅造りが必要であるとともに、安価な宅地を供給していく必要がある。住宅地の分譲については、アンケート調査などをもとに開発を進め、飯山市土地開発公社が昭和 43 年以後平成 21 年までに分譲した区画数は 698 になる。

市営住宅については、市民の住宅需要に応じて設置してきており、現在 66 棟 257 戸（H22.4.1 現在）を管理している。しかし、昭和 30～40 年代に建設した住宅戸数 95 戸、昭和 50 年代に建設した住宅戸数 68 戸のため、老朽化が進んでおり、建替等しなければならない住宅が多い。

市営住宅の管理概況

区分	住宅団地等名(管理戸数)											計
	水上	曙町	金山	新町	福寿町	本町西						
公営住宅	60	28	52	12	24	20						196
市単独住宅	曙町厚生	木島	曙団地	田町	須多峰住宅	須多峰厚生	金山住宅	曙町住宅	戸狩住宅	本町団地	弓町住宅	46
	1	8	7	1	2	5	4	2	4	10	2	
若者定住	戸狩照里	戸狩成合	関沢若者	神明ヶ丘若者	木島若者	福寿町若者						11
	1	2	1	1	5	1						
地域特賃	地域特賃											4
	4											
	計											257

資料:都市計画課

県営住宅の管理概況

区分	住宅団地等名(管理戸数)		計
	県町	北町	
公営住宅	104	56	160

資料:北信地方事務所

公営住宅地分譲の状況

H22.3.31

団地名	造成年度	区画数	分譲面積	平均面積
金山	S43年	35	7,660	
金山二次	S46年	11	3,259	
金山三次	S47年	22	6,349	
田草	S47年	9		
西田	S51年	8	3,760	
清川	S52年	8	2,679	
岡峰	S52年	8	2,973	
替田	S54年	17	5,859	
東栄	S58年	42	13,052	334
東栄二次	S60年	12	4,561	
城山	S61年	11	4,606	418
楯倉	S62年	30	9,324	310
赤畑	S62年	2	873	
東栄三次	S62年	2	667	
元宮	S63年	1	328	
町田	H元年	16	6,732	420
神明ヶ丘	H元年	11	4,349	395
楯倉二次	H元年	5	1,685	
赤畑	H元年	4	1,661	
下木島	H元年	1	1,678	
西倉	H2年	40	13,632	340
楯倉三次	H2年	2	918	
赤畑上段	H2年	2	843	
楯ノ東	H2年	1	662	
堤下	H3年	42	12,785	304
常盤	H3年	21	9,073	432
戸狩駅西	H3年	14	5,266	376
鷹飼	H3年	3	1,528	
下木島	H3年	2	694	
松倉	H4年	43	14,704	341
戸狩野沢温泉駅西	H4年	14	5,009	357
元宮特住	H4年	3	1,239	413
西倉二次	H5年	6	2,484	414
松倉二次	H5年	3	1,852	
赤畑上段	H5年	1	722	
秋津中央	H6年	42	15,801	376
秋津中央二次	H7年	35	13,165	376
高原口	H7年	13	6,055	465
神明ヶ丘二次	H7年	2	1,741	
西幹線沿線	H7年	1	411	
戸狩岡峯	H7年	1	363	
秋津中央三次	H8年	18	6,620	367
戸狩岡峯	H9年	1	243	
緑ヶ丘	H9年	14	5,177	369
大深	H11年	23	8,771	380
桑名川	H11年	3	1,499	499
上新田	H13年	48	17,319	
蓮田	H14年	12	4,909	
新町裏	H14年	7	2,849	
舂ノ浦	H14年	6	1,990	
長峰公園	H18年	20	9,110	
		698	249,489	

資料: 飯山市土地開発公社

(2) その対策

水道

良質で安全かつ安価な水の確保は、市民生活上欠かすことのできないものであるため、湧水などの調査を進めるとともに、地下水の調査を行い水資源の開発を進める。

道路整備などに合わせて老朽管の布設替えを行い、有収率の向上を図るとともに経営の効率化を進める。

簡易水道は施設の老朽化が進んでいるため、施設の修繕と更新を図るとともに未給水地域解消のため簡易水道施設の新設を行う。

生活排水処理

ア 下水道

公共下水道及び農業集落排水区域など集合処理区域内における水洗化率の向上を図る。

下水道使用料の定期的な見直しと適切な使用料の設定を行うとともに、将来的には使用料の統一を図る。

施設の老朽化に伴う修繕・改築等を見越した計画的な下水道経営を図るとともに、企業会計への移行について検討する。

イ 合併処理浄化槽

合併処理浄化槽整備区域における水洗化率の向上を図る。

廃棄物処理

ア ごみ処理

ごみの減量を図るため、3R(リデュース：発生抑制、リユース：再使用、リサイクル：再生利用)を推進する。

ごみ処理の有料化を含めたごみ分別・収集体制の見直しを行い、ごみの排出抑制・資源化を推進する。

イ し尿処理

くみ取り量の減少に伴う収集及び処理方法・処理施設のあり方についての見直しを行う。

消防

岳北消防本部の施設整備を進める。

雪対策を進めるため、積雪型消火栓の設置を進める。

消防ポンプ等、消防団の施設整備を進める。

防災関係では、各地区自主防災会の充実を図る。

防災資機材の備蓄を進める。

景観形成

フラワーロード事業、いいやま花フェスタ事業及び、景観育成住民協定地区（長野県景観条例第 32 条の規定により認定された地区で現在市内に 6 地区認定）と連携を図るなど、住民の自主的・自発的な地域づくりを支援し地域の実情に応じた景観づくりを進める。

公園

より良い公園にするため年次計画を策定することとし、その計画に基づき飯山市のシンボルとして、景観に配慮した整備を進める。

住宅

快適な環境を備えた住宅団地の販売を行い、U・Iターン者を始めとする定住人口の受け皿として、空家の活用を含め移住定住施策を展開する。

老朽化した市営住宅の計画的な建替や長寿命化を図るための改修を進める。

冬期間の屋根雪処理については、高齢者世帯等が自宅屋根を融雪化した費用に対し補助することにより雪下ろしに伴う身体的、経済的負担の軽減や危険防止を図る。

その他

太陽光や風力、雪などの自然エネルギーの利活用の研究を進め、また、リサイクルを始めとする循環型社会のシステムへの取り組みを実践する。

(3) 計画

事業計画(平成22年度～27年度)

自立促進 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備 考	
3 生活環境の 整備	(1) 水道施設				
	簡易水道	統合簡水中央監視装置改修工事	市		
	(4) 消防施設	ポンプ自動車整備事業		市	
		消防施設整備事業(飯山市負担分)		市	
		消防救急無線整備事業(飯山市負担分)		市	
	岳北広域救助工作車整備(飯山市負担分)		市		
(6) 過疎地域自立 促進特別事業	住宅リフォーム支援事業	市民の住環境向上のため、住宅をリフォームした者に補助金を交付する。	市	H23 追加	
	防災・減災対策事業	災害発生時における避難者等支援体制の充実を図るため、備蓄物資を購入する。	市	H23 追加	

5 高齢者等の保健及び福祉の向上及び増進

(1) 現況と問題点

高齢者福祉

当市の高齢化率は、平成 20 年 4 月に 30%を超え、県下 19 市中もっとも高齢化が進んでいる。今後ますます高齢化が進むと予測される中、高齢者がいかに充実した日々を送るかは、高齢者本人や家族のみならず、地域社会全体にとっても極めて重要な課題となっている。いくつになっても元気で生きがいをもち、安心して暮らせるまちづくりが求められている。

市では、高齢者の地域への社会貢献の場づくり、生きがいづくり活動や交流の場の充実を目指して、飯山地域シルバー人材センター、飯山市老人クラブ連合会及び老人福祉センター湯の入荘等の運営を支援している。

しかし、活発に活動している方が多い一方で、全体的には利用者数や会員数は減少傾向にあり、これに歯止めをかける何らかの対策が求められている。

高齢者の閉じこもり防止や介護予防等、高齢者を地域で支えていく自主的な活動を広めることが課題となっており、地域包括支援センターを中心に、市内各地区で開催される集落サロンの拡充や認知症サポーター養成に取り組むとともに、高齢者を対象とした講演会や学習会を開催している。

平成 18 年度の介護保険制度改正により「介護予防事業」が新たに取り入れられ、市でも要介護状態になる前の人を対象とした介護予防教室を開催している。大多数の高齢者の方ではできるだけ住み慣れた地域で暮らし続けられることを望んでおり、自立した生活が送れるよう、支援体制を整え、必要なサービスを提供する必要がある。また不安を感じることなく安心して暮らせるよう、ひとり暮らし高齢者世帯や、特に社会的にも重要な課題とされている認知症高齢者を、地域で見守り、その家族を含めた生活を支えていく活動を推進していかなければならない。

さらに、成年後見制度等を活用した高齢者の人権を守る権利擁護や、高齢者見守り支援システムといった緊急時の体制を整備し、不安なく生活が送れる場所の確保が求められている。

平成 12 年度から新たな社会保障制度として開始された介護保険制度も、平成 21 年度で 10 年が経過し、一定の定着・浸透がされてきている。一方、高齢化の進展に伴い、介護サービスを利用される方の高年齢化も顕著になってきており、介護サービスを利用する可能性の高い方が増加している。今後も増加すると見込まれる介護需要に応じたサービスが提供できるように基盤を整えていく必要があり、介護サービス量の確保や質の向上は不可欠といえる。

市では、事業者や行政間の情報交換や連絡調整等を連携して行い、サービスの質を高め、市民の多様なニーズに効果的に対応できるよう、引き続き取り組んでいく必要がある。

高齢化率と要援護老人数の推移

各年4月1日現在

年	総人口	65歳以上人口	高齢化率		寝たきり 高齢者数	ひとり暮らし 高齢者数
			飯山市	長野県		
S55年	30,146	4,328	14.4	12.4	141	123
S56年	29,798	4,513	15.1	12.8	147	145
S57年	29,594	4,531	15.3	13.1	157	149
S58年	29,483	4,481	15.2	12.9	137	164
S59年	29,367	4,531	15.4	13.2	124	173
S60年	29,249	4,652	15.9	13.5	134	183
S61年	28,913	4,781	16.5	13.9	124	202
S62年	28,715	4,929	17.2	14.3	148	218
S63年	28,525	5,117	17.9	14.8	144	260
H元年	28,383	5,301	18.7	15.3	151	268
H2年	28,283	5,471	19.3	15.9	158	281
H3年	27,914	5,694	20.4	16.4	158	299
H4年	27,683	5,926	21.4	17.1	149	333
H5年	27,675	6,171	22.3	17.6	157	364
H6年	27,573	6,242	22.6	18.2	154	379
H7年	27,572	6,371	23.1	18.8	158	402
H8年	27,290	6,484	23.8	19.4	131	423
H9年	27,113	6,660	24.6	19.8	174	455
H10年	27,002	6,797	25.2	20.5	164	456
H11年	26,843	6,877	25.6	20.8	163	466
H12年	26,586	6,930	26.1	21.2	168	487
H13年	26,271	7,036	26.8	21.8	164	503
H14年	25,872	7,087	27.4	22.2	201	530
H15年	25,585	7,173	28.0	22.7	248	559
H16年	25,318	7,208	28.5	23.0	244	589
H17年	25,044	7,216	28.8	23.4	224	605
H18年	24,715	7,271	29.4	24.1		620
H19年	24,314	7,233	29.8	24.7		645
H20年	23,969	7,260	30.3	25.2		694
H21年	23,828	7,255	30.4	25.9		673

寝たきり老人数とひとり暮らし老人数は、各年7月1日現在(ただし平成10年は8月1日現在)
平成13・14年の寝たきり等高齢者数は、11月1日現在。

児童福祉（子育て支援）

当市の児童数は減少し続けているが、子育てに関するニーズは多様化しており、それに応じて様々な子育て支援サービスを実施している。

保育所は、市立保育所9園、私立保育所1園があり、市内全体の定員数は790人であるが、ほとんどの保育所は定員に満たない状況である。施設の中には老朽化の進んでいるものがあり、改築が必要となっている。

児童センター、児童館、児童クラブは、市内で合計8カ所を運営している。小学生の放課後対策は充実が求められる一方で、既存施設や小学校の一部を活用しているため、施設の改築や拡充が課題となっている。

この他、市では子育て支援センター2カ所、ファミリー・サポート・センター1カ所を設置しているほか、各種給付、相談事業等を実施している。

また、民間では児童養護施設1カ所、幼稚園1カ所に加え、ボランティア等による自主的な子育てサークル活動も広がりを見せており、子どもと子育て世帯の支援が行われている。

保育所入所児童数等の推移

各年4月1日現在

	S50年	S55年	S60年	H2年	H7年	H12年	H17年	H22年
保育所数	18	19	19	19	17	15	12	10
市立	17	18	18	18	16	14	11	9
私立	1	1	1	1	1	1	1	1
定員	1,437	1,506	1,275	1,110	1,035	920	865	790
市立	1,291	1,356	1,125	990	915	800	715	640
私立	146	150	150	120	120	120	150	150
入所児童数	1,209	1,372	1,116	888	792	717	684	608
市立	1,064	1,228	981	779	674	588	554	473
私立	145	144	135	109	118	129	130	135

へき地保育所及び委託児童は含まない

資料：子ども課

保育所の現況

平成22年4月1日現在

保育所名	建設年月	敷地面積	施設面積	定員	入所児童数
しろやま	S47.4	3,245	925.7	60	44
あきは	H 9. 3	1,919	544.1	70	72
木島	S58.11	5,636	966.4	100	66
秋津	S63.11	2,826	554.4	70	66
いずみだい	H20.11	4,098	527.6	70	55
常盤	H 4. 3	5,387	834.0	80	45
瑞穂	S57.11	3,672	420.5	60	29
とがり	H 8. 2	7,100	931.8	100	88
しらかば	H 4.11	4,175	321.8	30	8
私立めぐみ	S51.11	1,665	1,080.6	150	135
計				790	608

委託児童は含まない

資料：子ども課

児童センター等の現況

平成22年4月1日現在

名 称	設置年月	設置主体	運営主体	登録児童数 (人)	施設面積 (m ²)
上町児童センター	S61.4	飯山市	飯山市社会福祉協議会	45	339.0
戸狩児童センター	H13.6			30	434.5
城山児童館	H13.1			38	132.5
木島児童館	H14.4			21	164.1
秋津児童クラブ	H16.6			28	45.6
瑞穂児童クラブ	H16.6			14	18.0
泉台児童クラブ	H14.4			23	128.6
常盤児童クラブ	H15.4		常盤児童クラブ運営委員会	52	90.4

資料:子ども課

障害者福祉

障害者（手帳所持者）の数は、平成22年4月1日現在で、身体障害者1,118人、知的障害者194人、精神障害者172人である。

平成18年に障害者自立支援法が施行され、障害の種別（身体障害、知的障害、精神障害）にかかわらず、必要とするサービスが利用できるよう、サービスを利用するための仕組みが一元化された。

また、利用者負担が応能負担からサービス利用量と所得に応じた応益負担に変わった。

障害者数は年々増加しており、特に知的障害者及び精神障害者が増加傾向にあり、今後益々増大する障害福祉サービスへの対応が必要になっている。

国においては障害者自立支援法を廃止して、平成25年8月までに障害者新法を制定するということが、検討が始められている。

飯山市障害者計画（平成18年度～23年度）に基づいて、ノーマライゼーションを基本理念とし、共に地域で生活できるよう事業推進する必要がある。

福祉施設の状況

平成22年4月1日現在

	施設の種類	施設名称	設置年次	定員
老人福祉施設	養護老人ホーム	千曲荘	S34年	50人
	老人福祉センター	湯の入荘	S53年	-
介護保険施設	介護老人福祉施設	千曲荘	H2年	60人
	介護老人保健施設	飯山介護老人保健施設みゆき	H14年	100人
	老人デイサービスセンター	飯山市社協デイサービスセンター ゆきつばき	H12年	30人
		飯山市社協デイサービスセンター 常盤	H17年	25人
		飯山市社協デイサービスセンター 瑞穂	H19年	20人
		飯山市社協デイサービスセンター 外様	H22年	20人
		宅老所あいあい	H22年	11人
		宅幼老所ゆりかご	H17年	10人
		デイサービスセンターみゆき	休止	
	老人デイサービスセンター (認知症対応型)	飯山市社協デイサービスセンター ゆきつばき	H18年	12人
		JA北信州みゆきデイサービスセンター ひだまり	H18年	12人
		JA北信州みゆきデイサービスセンター 北部ひだまり	H18年	12人
	通所リハビリテーション(デイケア)	飯山赤十字病院指定通所リハビリテーションふきのとう	H15年	20名
		飯山介護老人保健施設みゆき	H14年	55人
	老人短期入所施設	千曲荘	H12年	6人
		飯山市社協ショートステイ	H12年	7人
		飯山市社協ショートステイ瑞穂	H19年	7人
		飯山市社協ショートステイ外様	H22年	8人
		ショートステイみゆき	H20年	30人
	認知症対応型共同生活介護施設(グループホーム)	NPO法人赤いにんじん	H18年	6人
グループホームゆりかご		H18年	9人	
グループホームすずらん		H19年	9人	
障害者自立支援法関係施設	障害者支援施設	常岩の里 ながみね	S55年	55人
	ケアホーム	戸狩ホーム	H9年	4人
	ケアホーム	ときわホーム	H15年	5人
	ケアホーム	下水沢ホーム	H16年	4人
	ケアホーム	静間ホーム	H17年	5人
	ケアホーム	たまちホーム	H18年	5人
	ケアホーム	ホームかたくり	H12年	6人
	ケアホーム	第2かたくり	H19年	4人
	地域活動支援センター	飯山市地域活動支援センター	H20年	15人
	多機能型障害福祉サービス事業所	ふっくら工房ふるさと	H14年	60人
	多機能型障害福祉サービス事業所	棚田の杜ほくずい	H18年	32人
	児童福祉施設	児童養護施設	飯山学園	S25年
保育所		市内10ヶ所		790人
児童館		市内4ヶ所		135人
助産施設		飯山赤十字病院	S42年	-
その他福祉施設	授産施設	福祉企業センター	H12年	50人
	心身障害児(母子)通園施設	ゆきんこ園	S55年	10人
	介護支援施設	ケアセンター湯の入	H12年	15人

資料:保健福祉課、子ども課

(2) その対策

高齢者福祉

高齢者福祉とは、高齢者が長年にわたって社会の進展に寄与してきた方々であるとともに、豊富な知識と経験を有していることから敬愛され、生きがいをもって健康で安心した生活を送ることができるよう、社会全体で支えていくことである。

「いくつになっても生きがいをもち、支え合い安心して暮らせるまちをつくろうを基本理念に、ボランティア育成をはじめとする人づくり、支え合う風土づくり等、引き続き地域福祉活動を推進する。

児童福祉（子育て支援）

各種施設の適正規模配置を進め、その機能を充実させる。

老朽化施設の改築を進める。

子育て世帯のニーズの多様化に対応するため、保育料の一部無料化や福祉医療（子育て支援分）の対象年齢拡大など子育て支援サービスを拡充する。

障害者福祉

障害者の自立支援の観点から、地域生活への移行や就労支援といった、今後益々増加する課題に対応したサービスの提供基盤を整えるとともに、障害者の生活を地域全体で支えるシステムを実現するために北信地域障害福祉自立支援協議会と連携を図りながら、地域の社会資源を活用して基盤整備を進める。

(3) 計画

事業計画(平成22年度～27年度)

自立促進 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備 考
4 高齢者等の 保健及び福 祉の向上及 び増進	(1)高齢者福祉施 設	須多峰介護センター施設整備事業	市	H23 追加
	その他			
	(3) 児童福祉施設	保育所環境整備事業	市	
	保育所			
	児童館	児童館整備事業	市	
(7) 過疎地域自立 促進特別事業	子育て応援事業	市		
	乳幼児の子育てを行う世帯の経済的負担を軽減することにより、定住化を図り、人口減少・少子化に歯止めをかけるために、小学校入学前の乳幼児の保護者に、「子育ておうえん券」を交付する。			
	乳幼児医療事業(市単分)	市		
	医療費の負担軽減をし、医療福祉の増進を図るため、現在小学6年生まで行っている医療費の自己負担の償還を中学生まで拡充する。			
	第3子保育料無料化補助事業	市	H23 追加	
	保護者の経済的負担の軽減及び子育て環境の充実を図るため、一定条件を満たす第3子以降の児童(私立幼稚園に通園する者)に係る保育料について補助する。			

6 医療の確保

(1) 現況と問題点

診療施設

市内には一般病院が1カ所（飯山赤十字病院）のほか、一般診療所が14カ所、歯科診療所が7カ所ある。飯山赤十字病院については、定員割れしている医師をはじめとする医療関係者の確保及び初期救急体制の維持、診療科目の常時開設や増設などを要望していく必要がある。

高齢化が進む一方、健康に対する関心の深まりなどから、医療体制の整備は一段と重要な課題となっている。そのため、地域医療については、飯水医師会の協力を得て出張診療事業を行うなどの対策を進めてきている。

医療関係施設

各年4月1日現在

	病 院				診療所数				施術所数	歯科技工所数	助産所数	
	病院数		病床数		診療所数		病床数	歯科診療所数			有床	その他
	公的	その他	一般	その他	公的	その他						
S55年	1		122	60	14		32	8	18			
S57年	1		172	60	15		22	8	18			
S59年	1		202	30	11		19	8	26			
S61年	1		224	30	12		19	7	22			
S63年	1		224	30	2	10	19	7	9	2	2	2
H2年	1		224	30	3	12	17	8	8	2	2	2
H4年	1		240	30	3	12	17	8	7	2	2	2
H6年	1		240	30	3	12	17	8	5	3		
H8年	1		300		15		17	8	5	3		
H10年	1		300		16			7	5	3		
H12年	1		300		15			9	6	3		
H14年	1		300		13			9	6	3		
H16年	1		300		13			8	6	3		
H18年	1		300		13			8	6	3		
H20年	1		300		12			7	8	2		

資料:北信保健福祉事務所

医療従事者数

平成20年12月31日現在

職種	従事者数
医 師	43
歯科医師	12
薬剤師	46
歯科技工士	9
歯科衛生士	22
保健師	17
助産師	8

職種	従事者数
看護師	236
准看護師	39
診療放射線技師	9
衛生(臨床)検査技師	15
理学療法士	19
作業療法士	12

その他

人は誰も、健康で長生きをしたいと願っており、老後の不安で一番大きいのが健康問題である。お年寄りにとっては、健康で日々の暮らしを送れることが何よりも重要なことであり、そのためには、乳幼児期からの健康づくりが必要になる。

当市では、各種健康教室などを開催し意識の高揚に努め、各種スポーツ行事も健康づくりの一環として数多く開催している。

また、各種検診の受診率を高めることにより医療費を抑制するためにも、市民の検診に対する意識の向上が、今後ますます重要な課題となる。

現在、市民の健康管理については、保健センターを中心として健康教室や健康相談を開くなど、その対策に取り組んでいる。

がん検診の実施状況

(単位:人)

	乳房		子宮		胃		肺		大腸	
	対象者	受診者	対象者	受診者	対象者	受診者	対象者	受診者	対象者	受診者
S58年	7,918	529	6,490	828	11,868	1,139				
S60年	7,970	264	6,479	790	11,869	993				
S62年	8,000	447	6,500	959	11,700	1,484				
H元年	8,744	732	8,744	1,187	14,176	2,038				
H2年	8,686	561	8,686	985	12,699	1,752	12,699	674	12,699	459
H3年	8,711	633	8,711	998	12,713	1,873	12,713	818	12,713	540
H4年	8,659	649	8,659	935	11,892	1,653	11,892	709	11,892	713
H5年	8,651	699	8,651	1,045	12,683	1,873	12,683	854	12,683	916
H6年	8,643	874	8,643	1,125	12,739	1,692	12,739	962	10,470	1,243
H7年	8,608	642	8,608	795	12,726	1,599	12,726	668	10,399	1,045
H8年	8,589	588	8,589	809	12,713	1,404	12,713	640	10,318	1,043
H9年	8,571	607	8,571	810	12,719	1,310	12,719	692	12,719	1,083
H10年	8,578	557	8,578	738	12,765	1,257	12,765	671	12,765	1,045
H11年	8,557	546	8,557	698	12,789	1,270	-	-	12,789	1,121
H12年	10,035	504	10,035	653	17,599	1,227	-	-	16,143	1,089
H13年	9,996	641	9,996	676	17,535	1,167	-	-	16,128	1,080
H14年	9,912	699	9,912	685	17,419	1,204	-	-	16,057	1,220
H15年	9,916	668	9,916	675	17,380	1,287	-	-	16,049	1,308
H16年	9,880	668	9,880	673	17,321	1,318	-	-	16,014	1,338
H17年	10,001	671	10,001	633	17,459	1,200	-	-	16,137	1,316
H18年	9,855	702	11,128	685	17,176	1,197	8,292	305	15,852	1,300
H19年	9,836	752	11,088	742	17,226	1,200	8,216	373	15,902	1,389
H20年	9,785	924	8,724	701	17,160	1,200	8,128	448	15,822	1,516
H21年	9,754	1,029	8,811	773	17,129	1,302	8,080	595	15,767	1,711

乳房・子宮検診:30歳以上、胃・肺検診:35歳以上、大腸検診:40歳以上

肺検診の平成11年～17年は、結核予防法改正によりレントゲンと併せて行っていた肺検診(喀痰検査)は未実施

肺検診の平成18年以降は40歳以上64歳未満が対象。

資料:保健福祉課

(2) その対策

医療施設

医療機器、病院施設の整備に対して協力し、診療体制を強化する。

その他

市民の健康管理のための健康づくり運動を積極的に推進するとともに、出張診療事業のあり方について検討する。

(3) 計画

事業計画(平成22年度～27年度)

自立促進 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備 考
5 医療の確保	(3) 過疎地域自立 促進特別事業	無医地区出張診療所事業 最寄の医療機関の無い集落に対して医療の提供の場を 確保するため、医師が集落に出向き診療を行う。	市	H23 追加
	(4) その他	医学生奨学金	市	

7 教育の振興

(1) 現況と問題点

学校教育

市内の小中学校は、小学校が8校、中学校が2校ある。

小学校の改築は昭和49年度から平成2年度まで行われ、施設整備は完了したが築20年から35年が経過し、施設の傷みが進んでおり修理箇所が多くなってきており、順次改修を進めている。

また、中学校については、平成22年度に3校から2校への学校統合を行った。1校は県の高校を取得・改修、1校は現校舎を活用し、それぞれ新たな中学校がスタートしている。現校舎を使用した城南中学校の校舎は築40年以上が経過し、老朽化が進んでおり、高校の2次統合に伴う空き校舎の取得も視野に入れ整備をする必要がある。また、中学校給食センターも老朽化が進んでおり順次改修を進める必要がある。

一方、当市においても児童、生徒数の減少が進んでいるが、平成21年度に策定した「飯山らしい学校教育計画」に基づき、ふるさとへの愛着を育てるなど6つの方針に沿って、将来の活力ある地域づくりの担い手としての育成を図っている。

小中学校施設の概況

学校名	年度	建設区分	大規模改造
岡山小	S49	校舎 3階建	H11
	S50	給食室 体育館 プール	H8
戸狩小	S52	校舎 2階建	H12
	S53	体育館 給食棟 プール	H9
東小	S54	校舎 2階建	H14
	S55	給食棟 体育館 プール	H9
飯山小	S50	プール	
	S58	校舎 3階建	
	S60	屋体給食棟 2階建	
常盤小	S59	校舎 3階建	
	S61	屋体給食棟 2階建	
	S63	プール	
泉台小	S60	校舎 3階建	
	S61	屋体給食棟 2階建	
	S62	プール	
木島小	S61	校舎 3階建	
	S63 H元	屋体給食棟 3階建 プール	
秋津小	S62	校舎 3階建	
	H元 H2	屋体給食棟 2階建 プール	
城南中	S40	校舎 3階建	H21
	S41	体育館	H8
	S47	プール	
城北中	S54	校舎 5階建	H21
	H7	体育館 2階建	
	H4	プール	

資料:子ども課

学校別児童・生徒数の推移

平成22年4月1日現在

	小学校											中学校			
	計	秋津	飯山	柳原	富倉	外様	常盤	岡山	東	木島	戸狩	計	第一	第二	第三
S55年	2,593	210	964	149	38	90	217	89	166	261	409	-	-	-	-
S56年	2,559	213	923	149	37	91	231	90	162	255	408	-	-	-	-
S57年	2,568	219	911	135	43	91	240	95	163	268	403	-	-	-	-
S58年	2,576	217	891	138	38	93	246	93	179	272	409	-	-	-	-
S59年	2,571	214	895	143	35	94	234	90	179	268	419	-	-	-	-
S60年	2,517	201	860	150	30	100	219	86	183	271	417	1,270	505	369	396
S61年	2,434	195	803	150	27	95	213	85	176	272	418	1,306	521	402	383
S62年	2,365	197	767	泉台	266		205	70	185	271	404	1,307	512	401	394
S63年	2,301	187	733		268		196	57	178	271	411	1,280	491	383	406
H元年	2,241	168	710		270		205	53	165	272	398	1,255	462	370	423
H2年	2,199	160	674		250		216	56	160	289	394	1,252	468	375	409
H3年	2,154	164	659		226		221	51	151	295	387	1,221	445	384	392
H4年	2,090	154	629		214		225	53	155	289	371	1,162	415	379	368
H5年	2,093	145	640		201		230	54	146	303	374	1,122	403	370	349
H6年	2,029	142	613		190		228	53	146	303	354	1,108	399	356	353
H7年	1,987	152	615		187		211	47	139	298	338	1,094	380	346	368
H8年	1,889	150	572		191		205	45	126	285	315	1,100	368	353	379
H9年	1,826	148	574		192		196	39	111	275	291	1,083	363	345	375
H10年	1,794	155	572		188		180	34	106	277	282	1,034	342	342	350
H11年	1,717	165	544		192		171	37	98	244	266	1,010	340	339	331
H12年	1,674	172	537		187		161	34	94	238	251	958	317	331	310
H13年	1,672	160	551		183		161	38	93	239	247	936	337	312	287
H14年	1,631	160	565		170		153	39	81	222	241	871	309	281	281
H15年	1,601	152	549		166		148	39	89	218	240	843	317	269	257
H16年	1,566	140	552		164		143	44	79	203	241	857	315	284	258
H17年	1,521	133	544		147		141	39	84	193	240	831	316	272	243
H18年	1,493	126	550		153		136	34	87	174	233	804	296	278	230
H19年	1,429	139	514		147		137	32	80	159	221	773	292	257	224
H20年	1,398	140	501		142		127	28	85	158	217	761	299	241	221
H21年	1,305	141	464		130		119	25	77	148	201	770	305	236	229
H22年	1,242	147	448		115		122	18	77	135	180	755	城南 424	城北 331	

資料: 子ども課

社会教育

社会教育の拠点施設として、平成 18 年に公民館、図書館、美術館、ふるさと館及び女性センター未来の五館を一体化し、より実効性の高い地域に生かす学習の場作りのために総合学習センターが設置され、多くの市民に利用されている。また、公民館には市公民館のほか 10 の地区館と 105 集落館があり、地域に根ざした社会教育活動を実施している。

近年、少子高齢化に伴う地域基盤の弱体化やコミュニティの希薄化が指摘され、地域づくりの再構築が求められている中、飯山らしい社会教育計画の策定・推進及びふるさと学習による地域づくりや人材育成が課題となっている。

また、市公民館が昭和 57 年、図書館が平成元年に建設されているのをはじめ老朽化の施設もあり、整備も課題となっている。

スポーツ振興については、近年、ジュニア世代から高齢者まで多くの市民がスポーツに親しむようになってきているが、市営飯山シャンツェや長峰スポーツ公園等スポーツ振興の拠点となる既存施設の老朽化が進んでいる。

社会体育施設設置状況

施設名	建設年度	施設内容
市民体育館	S51年	バスケット2、バレー3、バド8、卓球20、テニス2、トレーニング室
市営庭球場	S55年	コート6(うち夜間照明4)
市民プール	S53年	50m競泳、流水、チビッコ
市営野球場	S54年	両翼89m、中堅120m
市営マレットゴルフ場	S63年	27ホール
飯山市勤労者体育館	H元年	バレー1、バド3
飯山市武道館	H2年	柔道2、剣道1
飯山市弓道場	H5年	10人立
市営飯山シャンツェ		
ノーマルヒル	H9年	P=74、K=80
ミディアムヒル	H3年	P=45、K=60
スモールヒル	H3年	P=20、K=30
クラブハウス	S62年	地上2階、地下1階
ジャッジハウス	H10年	審判室、計算室
市営戸狩シャンツェ	H5年	ミディアムヒル P=50、K=65
多目的運動広場	H12年	400mトラック
市営河川敷グラウンド	S46年	木島側2、飯山側2

資料: スポーツ生涯学習課

(2) その対策

学校教育

老朽化した小学校の大規模な改修と県の高校再編に伴う中学校の移転や給食センター、児童センター・児童館など関連施設の整備を行う。

「飯山らしい学校教育計画」にある、「ふるさとへの愛着」、「確かな学力の向上」、「地域との連携」、「子どもの夢を育てる」、「スポーツを通したたくましい心身の育成」、「安心安全の学校づくり」の6つの方針に基づき各施策を行い飯山らしい学校教育を推進する。

社会教育

総合学習センター各施設の専門性を発揮した事業をさらに推進する。また、「飯山らしい社会教育計画」に基づき、総合学習センターを中心に多様化する社会の変化に対応した学習機会の提供や地域に学び地域を創る事業を進める。

具体的には、コミュニティの活動、地域を知る活動、参加型の講座等を推進していく。

公民館活動の主体である地域づくり、人材育成に、市公民館、地区公民館、集落館が一体となって推進し、活性化の担い手となる地域リーダーを養成していく。また、生涯学習の情報収集・発信施設として、図書館等の整備を継続して実施し、老朽化に伴う施設の整備も計画的に行っていく必要がある。

スポーツ振興を図るため、利用者が安心してスポーツが楽しめるように、市営シャンツェ及び長峰スポーツ公園等の老朽化したスポーツ施設の改修と改善を進める。

(3) 計画

事業計画(平成22年度～27年度)

自立促進 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備 考
6 教育の振興	(1) 学校教育関連 施設			
	校舎	城南中学校移転事業 小学校施設リニューアル整備事業	市 市	
	スクールバス・ ポート	スクールバス購入事業	市	
	給食施設	共同給食調理場整備事業	市	
	(3) 集会施設、体 育施設等			
体育施設	スポーツ施設リフレッシュ事業	市		
(4) 過疎地域自立 促進特別事業				
	ジュニアスポーツ振興事業	スキーをはじめとしたジュニアスポーツについて、団体の活動への援助、サマージャンプ大会をはじめとした各種大会を開催する。	市	H23 追加
	教員加配事業	複式学級編制となっている小規模小学校におけるきめ細やかな指導・対応のため、市単独で教員を加配する。	市	H23 追加
	学力向上総合対策事業	小中学校における算数・数学等総合的な学力向上を図るため、教師を市立小中学校に配置する。	市	

8 地域文化の振興等

(1) 現況と問題点

地域文化の振興

市内には歴史的な建造物や史跡、歴史資料、伝統芸能などの文化遺産が多く残されており、平成18年に設置したふるさと館において古文書、民俗資料等の保存や公開、展示体制も整ってきている。

祭りに披露される伝統芸能は、北信濃の祭りとして特徴的なものが多く観光資源としても貴重となっている。過疎化、少子高齢化に伴う担い手不足が深刻であるが、今後とも大切に保存、伝承していくとともに、さらに磨きをかけ活用していくことが必要となっている。

また、現在、国・県・市指定文化財は認定を含め79件あるが、今後とも特に貴重なものを指定し保存・活用を図っていく必要がある。

飯山市の主な祭り

地区	名称	時期	地域	内容
全市	道祖神	1月上・中旬	各地	
	雪祭り	2月上・中旬	城北グラウンド	雪像コンテスト
	城山桜まつり	4月中・下旬	飯山城跡	桜まつり
	菜の花祭り	5月上旬	菜の花公園	朧月夜音楽祭
	奥信濃特産祭り	7月上旬	愛宕町周辺	飯山仏壇、内山紙
	盆踊り	8月中旬	各地	烏踊り
	なべくら高原そば花祭	9月上旬	なべくら高原	
飯山	片山稲荷神社大祭	5月上旬	鉄砲町	獅子舞、烏天狗、
	ぎおん祭り	7月上旬	本町、肴町	飯笠山神社、御輿
	葵神社祭礼	9月下旬	福寿町、田町、北町	
	奈良沢神社祭礼	9月中旬	奈良沢	天狗舞
秋津	静間神社	9月中旬	北畑、中町、大久保	獅子舞、長刀、屋台
	蓮神社	9月下旬	上組、中組、山根	獅子舞、屋台
木島	天満社祭礼	9月下旬	天神堂	獅子舞、天狗舞
	吉村神社祭礼	9月上旬	吉	獅子舞、神楽
瑞穂	小菅神社	7月中旬	小菅	柱松柴燈神事、神楽
	梶原神社祭礼	9月上旬	柏尾	獅子舞、天狗舞
柳原	大川神社祭礼	8月中旬	大川	獅子舞、居合い抜き
	笹川神社祭礼	9月下旬	笹川	天狗舞、長刀、太鼓
外様	諏訪社祭礼	9月下旬	法寺	獅子舞、天狗舞
常盤	小沼神社祭礼	8月15日	小沼	薩摩踊り
太田	五束神社祭礼	5/上、9/中	五束	太々神楽、獅子舞
岡山	名立神社祭礼	8月下旬	桑名川	長刀、獅子舞、みよ舞、猿田彦、天狗舞、剣の舞、音とうめん

芸術文化の振興

総合学習センター及び公民館、美術館や伝統産業会館、市民会館において芸術文化活動や芸術鑑賞、地域芸術文化の情報発信が行われている。また、市民芸術団体の支援も行い芸術文化の振興を図っている。

なお、老朽化している施設については施設の整備を行う必要がある。特に市民会館は耐震基準を満たしておらず、その上老朽化による使い勝手の悪さから、利用者の満足度が低下している。

また、国際交流員による児童生徒の語学指導や、一般市民との文化交流も進めているが、さらに推進する必要がある。

(2) その対策

地域文化の振興

城下町としての歴史的風土を活かした整備を推進する。特に飯山城跡の整備・活用を進め、市民の憩いの場とするとともに、新幹線飯山駅開業に向け、回遊性のあるまちづくり（まちなか観光）の拠点施設（重点歴史的資源）として整備を図る。

伝統文化においては、次代へつなげる伝承活動を積極的に進め、特に市にとって必要な地域伝統文化については積極的に保護策を講じるとともに、活用するための事業を検討する。

芸術文化の振興

市民が芸術文化活動を通して潤いのある生活や地域づくりを進めるため、引き続き優れた芸術文化の鑑賞機会の提供や芸術文化活動の支援を進める。そのためには老朽化した施設の整備を図る必要があり、特に市民会館は耐震強度も不足しているため、早急に建設の検討を行う。

住民の国際的感覚を養成するため、引き続き国際交流員によるふれ合いを基調とした事業を展開する。

(3) 計画

事業計画(平成22年度～27年度)

自立促進 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備 考
7 地域文化の 振興等	(1) 地域文化振 興施設 地域文化振 興施設	飯山城跡整備事業 美術館施設整備事業 飯山ぷらざ(仮称)建設事業 人形館周辺整備事業 仁王像整備事業	市 市 市 市 市	
	(2) 過疎地域自 立促進特別事業	ふるさとづくり地域社会推進事業 住民自ら地域を学び、自ら地域を創り上げることにより、住んでいて良かった、住んでみたい地域づくりを行う契機として、ふるさと百選選定、記録化、公開、普及事業を行う。	市	

(2) その対策

自分たちの住んでいる地域は自分たちで良くする、という意識の醸成を図り、各集落が主体性を持ちながら集落活性化策について研究を進めるとともに、集落合併支援事業を制度化し、この中で区行政の在り方や役割分担を見直すなど、持続可能な区運営のあり方を検討する。

コミュニティ施設、集落公民館などの集会施設を整備し、この施設を活用することによってコミュニティ意識の促進を図る。

また、都市との新しい共生関係を深め、交流人口から定住人口へと移行するための窓口として、移住定住事業を進める。あわせて、定住促進のための住宅整備補助等も行う。

(3) 計画

事業計画(平成22年度～27年度)

自立促進 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備 考
8 集落の整備	(1) 過疎地域自立促進特別事業	輝く地域づくり支援金 活力あふれ、輝く地域づくりをすすめるために、集落または公共的団体が地域住民とともに、自ら考え、自ら行う事業に対し支援金を交付し、活動を支援する。	市	
		集落活動サポート事業 中山間集落に住む人たちが地域資源を再評価して経済活動へ繋げる、さらに住民の主体的な活動を掘り起こし、元気の持てる、安心して暮らせる地域を自らつくることの活性化策をサポート。	市	
	(3) その他	三世代等同居住宅建設支援事業	市	

10 その他地域の自立促進に関し必要な事項

(1) 現況と問題点

前項まで、過疎対策として実施すべき事業を並べてみると、ハード事業を中心に幅広いものとなっているが、これらの事業をより効果的に実施するためには、ソフト事業と有機的に連携させながら、事業を推進する必要がある。

(2) その対策

住民主体の個性豊かな地域づくり

これからの行政や地域社会の運営にあたっては、地域住民、女性や高齢者の参加はもとより、ボランティア団体、企業など、多くの者が参加できる枠組みをつくり、それぞれの団体が積極的に活動できるような支援体制を整備する必要がある。その成果として、多くの発想に基づく、地域資源を生かした、魅力的かつ個性的なイベントや事業が展開されるものと期待される。

また、過疎計画についての幅広い住民の理解と合意を得るため、その公表についても配慮し、多様化する住民のニーズや社会情勢の変化に柔軟に対応していけるよう、その見直しも視野に入れつつ、住民の意向を反映する必要がある。

関連施策の効果的な展開

計画に載せられた施策については、優先順位を付けて各事業の位置付けを明確にし、「自立促進の基本方針」の実現に向けての一連の事業群として捉えたうえで、進行管理及び事業評価を徹底することが重要である。

さらに、北陸新幹線飯山駅開業を契機に観光振興など、市域を越えた広域的な連携による取り組みも検討する。

(3) 計画

事業計画(平成22年度～27年度)

自立促進 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備 考
9 その他地域の自立促進 に関し必要な事項				

事業計画(平成22年度～27年度) 過疎地域自立促進特別事業分

自立促進 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備考
1 産業の振興	農産物一次加工施設設置事業	農産物の高付加価値化を進めるため、細胞組織を壊さない冷凍システムを備えた農産加工施設を整備に向けて、市場の需要、販路の研究調査を行う。	市	
	協働のもりづくり事業	里山から離れつつある地域住民の森林への意識を高め、多機能を有する森林の整備と保全を推進するため、区民が協働で森林整備を進める活動に対して支援を行う。	市	
	有害鳥獣対策事業	農地を鳥獣被害から守るため、地区が整備する電気柵、電気柵緩衝地帯に対し補助を行う。23年度にモデル事業として行う。	集落	
	街並み整備事業(ソフト)	回遊性のあるまちづくりを進めるため、街並み整備重点地域の設定、街並み整備計画の策定、ガイドラインに沿った新築、改修に補助、市が行う街並み整備。	市	
	企業誘致新規施策事業	企業誘致を進めるため、現在行っているハード面の優遇策に加え、ソフト面での新たな施策を展開する。	市	
	新駅開業に向けた地域ブランドPR・誘客イベント事業	新幹線飯山駅の開業を全国に発信するとともに、新駅開業をより効果あるものとするため、地域ブランドの調査研究、誘客イベントの計画策定、実施。	市	
	インバウンド推進事業	海外からの誘客を推進するため、案内板等整備、HP・ガイドブックの作成、通訳ガイドの組織化を行い、海外からの観光客の受け入れ体制を構築する。	市	
	まちなか観光周遊事業	観光客の市内周遊を促すため、レンタサイクルの充実、市内周遊バスの検討、運行。	市	
	ITを活用したまちなか観光推進事業	利便性が高いまちなか観光を推進するため、携帯端末を活用したナビゲーションの研究、駐車場誘導システム等のスムーズな車両誘導の研究を行う。	市	
	歩こさいいやまグレードアップ事業	「歩こさいいやま」のマップをベースに、更なる情報強化と時点修正を図り、新幹線開業後を視野に飯山市観光のバイブルとして活用する。	市	
	地域資源活用型起業支援事業	回遊性のあるまちづくりを進めるため、飲食店をはじめとした地域資源を活用した起業に対し補助し、魅力あるまちづくりを行う。	市	
	観光推進事業	観光振興策を一元的に推進する体制が整得るため、飯山市観光協会から移行した信州いいやま観光局の活動を補助し、魅力づくりに取り組み、誘客拡大、受け入れ態勢の充実を目指す。	観光局	
北陸新幹線飯山駅開業記念イベント開催事業	平成26年度末の北陸新幹線飯山駅開業を市民挙げて祝い、新幹線開業が過疎脱却の起爆剤となるように、市民の機運を醸成し、記念イベントを開催する。	市		
2 交通通信 体系の整備、 情報化及び 地域間交流 の促進	公共交通再生総合事業	市内バス交通について、現在のバスに関する実態調査、問題点・課題を抽出、市民の利便性を高めるとともにコストの削減を図るための改善案を作成し、実証運行を行う。	市	
	市道舗装修繕事業	財政難で補修ができず通行に支障をきたしていた市道のオーバーレイを行い、地域住民が安全に安心して暮らすことのできる道路整備を行う。	市	
	統合型GISコンテンツ情報発信事業	市が所有する都市計画図等をデジタル化するとともに、GISコンテンツの外部配信により市民の利便性を高めると同時に外部への観光案内マップとしての活用を行う。	市	H23追加

自立促進 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備考
3 生活環境の 整備	住宅リフォーム支援事業	市民の住環境向上のため、住宅をリフォームした者に補助金を交付する。	市	H23追加
	防災・減災対策事業	災害発生時における避難者等支援体制の充実を図るため、備蓄物資を購入する。	市	H23追加
4 高齢者等の 保健及び福祉 の向上及び増 進	子育て応援事業	乳幼児の子育てを行う世帯の経済的負担を軽減することにより、定住化を図り、人口減少・少子化に歯止めをかけるために、小学校入学前の乳幼児の保護者に、「子育ておうえん券」を交付する。	市	
	乳幼児医療事業(市単分)	医療費の負担軽減をし、医療福祉の増進を図るため、現在小学6年生まで行っている医療費の自己負担の償還を中学生まで拡充する。	市	
	第3子保育料無料化補助事業	保護者の経済的負担の軽減及び子育て環境の充実を図るため、一定条件を満たす第3子以降の児童(私立幼稚園に通園する者)に係る保育料について補助する。	市	H23追加
5 医療の確保	無医地区出張診療所事業	最寄の医療機関の無い集落に対して医療の提供の場を確保するため、医師が集落に向き診療を行う。	市	H23追加
6 教育の振興	ジュニアスポーツ振興事業	スキーをはじめとしたジュニアスポーツについて、団体の活動への援助、サマージャンプ大会をはじめとした各種大会を開催する。	市	
	教員加配事業	複式学級編制となっている小規模小学校におけるきめ細やかな指導・対応のため、市単独で教員を加配する。	市	H23追加
	学力向上総合対策事業	小中学校における算数・数学等総合的な学力向上を図るため、教師を市立小中学校に配置する。	市	H23追加
7 地域文化の 振興等	ふるさとづくり地域社会推進事業	住民自ら地域を学び、自ら地域を創り上げることにより、住んでいて良かった、住んでみたい地域づくりを行う契機として、ふるさと百選選定、記録化、公開、普及事業を行う。	市	
8 集落の整備	輝く地域づくり支援金	活力あふれ、輝く地域づくりをすすめるために、集落または公共的団体が地域住民とともに、自ら考え、自ら行う事業に対し支援金を交付し、活動を支援する。	市	
	集落活動サポート事業	中山間集落に住む人たちが地域資源を再評価して経済活動へ繋げる、さらに住民の主体的な活動を掘り起こし、元気の持てる、安心して暮らせる地域を自らつくることの活性化策をサポート。	市	
9 その他地域の 自立促進に 関し必要な事 項				

飯山市過疎地域自立促進計画
(平成 22 年度 ~ 27 年度)

発 行 平成 22 年 12 月 1 日
発 行 者 飯山市長 足立 正 則
編 集 飯山市総務部企画財政課

